

議案第 21 号

教育委員会事務事業点検・評価報告書（令和6年度事業対象）について

次のことについて議決を求める。

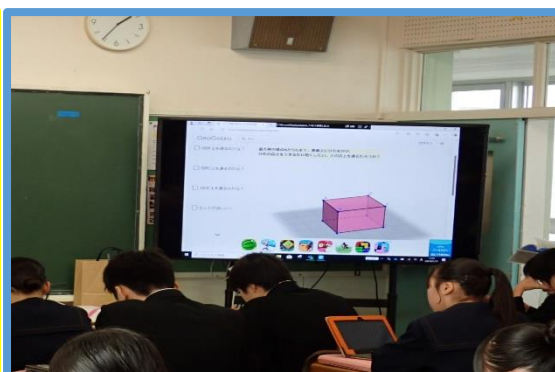
記

教育委員会事務事業点検・評価報告書（令和6年度事業対象）

（資料は別添）

教育委員会事務事業 点検・評価報告書

(令和6年度事業対象)



令和7年8月
小松市教育委員会

は じ め に

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、小松市教育委員会が令和6年度実施した事務事業の取り組みについて自らその状況について点検し評価を行い、公立小松大学 志村 恵 副学長 にご意見をいただき、まとめたものです。

令和7年8月

小松市教育委員会

【参考】「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	学識経験者の意見等	1
II	小松市教育大綱	
1	理念及び方針	4
2	アクションプラン	5
III	事務事業の点検評価	
1	点検評価の概要及び一覧表	7
2	事務事業点検評価票（個別評価票）	
方針1	学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進	
①	家庭や地域の教育力の向上	8
方針2	子どもが健やかに育つ家庭づくりのための「親育ち」を支援	
①	放課後児童クラブによる家庭支援	14
方針3	夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成	
①	未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成	15
②	特色ある高等学校教育	20
③	豊かな心の育成	23
方針4	生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進	
①	生涯学習の推進	28
②	生涯読書の推進	32
方針5	学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備	
①	新しい教育や社会の変化に対応した施設整備	36
②	安全で安心な教育環境の推進	38
③	効果的な学習のための環境整備	40
方針6	ライフステージに応じた健康的な生活習慣と病気に負けない身体づくりを推奨	
①	食育の推進	42

方針7	学校体育、生涯スポーツを推進、奨励	
①	体力・体づくりの推進	44
方針8	夢や創造性をもって新たな「知」を創出する科学教育を推進	
①	質の高い科学教育の推進	45
方針9	伝統文化の継承、音楽活動を支援・奨励	
①	ふるさとの文化の理解と伝承	48
方針10	住民主体の学びを通して活力ある「やさしいまちづくり」活動を支援	
	※「こまつ幸せへの道しるべ」に記載	
方針11	自然と共生し、様々な難局を乗り越える人間力を育成	
①	SDGsの推進	50
方針12	小松と世界をつなぎ持続可能な社会を切り拓く未来志向の活動を推進	
①	グローバルに活躍する人材の育成	51

IV 令和6年度小松市教育委員会の活動状況

1	小松市教育委員会	54
2	教育委員会会議の実施状況	54
3	総合教育会議の実施状況	54
4	教育委員が出席した主な活動内容	55

I 学識経験者の意見等

小松市教育委員会 点検・評価報告書（令和6年度事業）について下記のとおり講評いたします。

2025年8月5日

氏 名 公立小松大学 副学長 志村 恵

意 見 等
0. はじめに 「小松市教育大綱 2020」が掲げる理念・方針、アクションプラン等に則って小松市教育委員会が2024年度に実施した各事業に関して作成された『教育委員会事務事業点検・評価報告書』（令和6年度事業対象）に対して、以下、全体講評および注目すべき事業の成果と課題等について所見を述べる。
1. 全体講評 『報告書』の概要一覧によると、行われた46の事業（昨年度より1事業減）のうち、A評価（十分に達成された）が30事業（65.2%）、B評価（概ね達成できた）が16事業（34.8%）、C評価（やや不十分であった）とD評価（達成できなかった）はそれぞれ0事業（0%）であった。昨年度と比べて、A評価の割合がわずかに減少しているが（マイナス2.9%）、当該年度においても、「教育大綱」に基づいた5つの理念と12の方針のもと実施したその活動全体を通じて、適切かつ丁寧な事業遂行および振り返りがなされており、そのことが全ての事業をB評価以上に至らせたものと言える。 能登半島地震の影響が残っている状況の中で、それぞれの事業において丁寧な業務遂行がなされ、適切な進捗管理がなされたものと、2023年度に続き、2024年度においても高く評価できる。一方で、B評価の事業の中にKPIの伸びが鈍い事業や前年よりも数値を下げた事業が若干あったことは事実ではある。
2. 注目すべき事業の成果と課題 目標の達成が改善された注目すべき事業の一例として、3-②「特色ある高等学校

教育」における「総合的な探究の時間の充実による生徒の主体性・社会性の育成」が挙げられる。「総合的な探究の時間」は、自らの力で課題を発見し、その解決のために他者と協働しながらさまざまな可能性を模索する、主体的で自立した学習者・市民を涵養する極めて重要な科目である。小松市立高校において実施された取り組みでは、1年生が「GEMBA プロジェクト」（ものづくりや伝統工芸体感）や企業対象のフィールドワークを実施し、2年生は自己プロジェクトの成果を携え南加賀地区合同探究発表会に参加した。この発表活動により、表現力や自己発信力が成長したと思う生徒の割合が前年度より高くなったことは高く評価できる。

また、この探究型や自ら学ぶ主体的な学習と連動する、1-①「家庭や地域の教育力の向上」における「西俣自然教室管理運営事業」（A 評価）、「小松っ子を育てる市民会議」事業（A 評価）及び「自然の中で五感を使った野外体験」事業（B 評価であるが、参加団体は前年度より増）、6-①「食育の推進」における「家庭、地域と連携した食育の推進」事業（A 評価）、8-①「質の高い科学教育の推進」における「学校とひとものづくり科学館、教育研究センターの連携（教育施設としての活用）」事業（A 評価）および 11-①「SDGs の推進」における「SDGs 推進事業」（B 評価）など、地域における野外活動施設等や地域のリソーサーなどを巻き込んだ、全教育課程を通じた取り組みは、今後もぜひ継続していただきたい。

その一方で、A 評価から B 評価にダウンした事業が 2 つあったことは残念である。特に、5-③「効果的な学習のための環境整備」における「外国人児童生徒日本語初期指導（日本語指導、キャリア教育）」事業では、「日本語通級指導教室」2 か所において合計 36 人の児童に個別支援を行い、「日本語初期指導教室」1 か所において児童 14 人に日本語初期指導や日本の学校への適応指導を行う他、日本語支援員を派遣しての支援や保護者に対する通訳・翻訳支援、日本語指導に関する研修会の開催などを実施した。しかし、自己点検の結果、日本語指導を必要とする新就学児童や保護者への周知が不足していたと判断している。「子どもの権利条約」を挙げるまでもなく、外国ルーツの子どもたちに十分な教育の機会を提供することは、外国ルーツを持つ市民が多い小松市にとって最重要な課題である。情報弱者になりやすい外国ルーツの市民・子どもたちへの情報提供の改善を期待したい。（4-②「生涯読書の推進」における「読書活動の推進（おはなし会）」事業において、「日本語を母語としない子どもたちへの取り組み」をするなど、さまざまな工夫と努力を行っていることは、高く評価で

きる。)

また、3-①「未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成」における「学力向上事業」の KPI 「「教科の内容がわかる」児童生徒の割合」、8-①「質の高い科学教育の推進」における「学校とひととのづくり科学館と教育研究センターの連携」事業の KPI 「理科の勉強が好きと回答する児童生徒の割合」、12-①「グローバルに活躍する人材の育成」における「英語教育推進事業」の KPI 「英語が好きな児童生徒の割合」など教育の内容に関する KPI の達成が伸び悩んでいることは残念である。多様な児童生徒が増えている状況の中で、小松市も一人ひとりを大切に丁寧な指導をしていることは、たとえば、3-③「豊かな心の育成」における「学校及び家庭との連携を目指した教育相談体制づくり」事業（A 評価）等を見てもわかるが、教科学習において取りのこされる児童生徒が少しでも少なくなるような全校を挙げた、また他の事業とも連携したさらなる取り組みを望みたい。

3. まとめ

『小松市教育大綱 2020』に謳われている「一人ひとりが生涯にわたり、はつらつと活躍するために必要となる能力を身に付けること」および「一人ひとりの能力を最大限に発揮し、美しいまちと地球を未来に引き継ぐため、多様な人と協働しながら行動すること」という目標をより力強く達成するために、生まれてから亡くなるまでの長い生涯にわたる一貫した生涯教育をベースとしたウェルビーイングの向上、一人ひとりの個性とニーズを大切にする、多様性と持続性を重視した協働と学び合いの推進を小松市教育委員会ではこの大綱の対象期間において進めてきた。

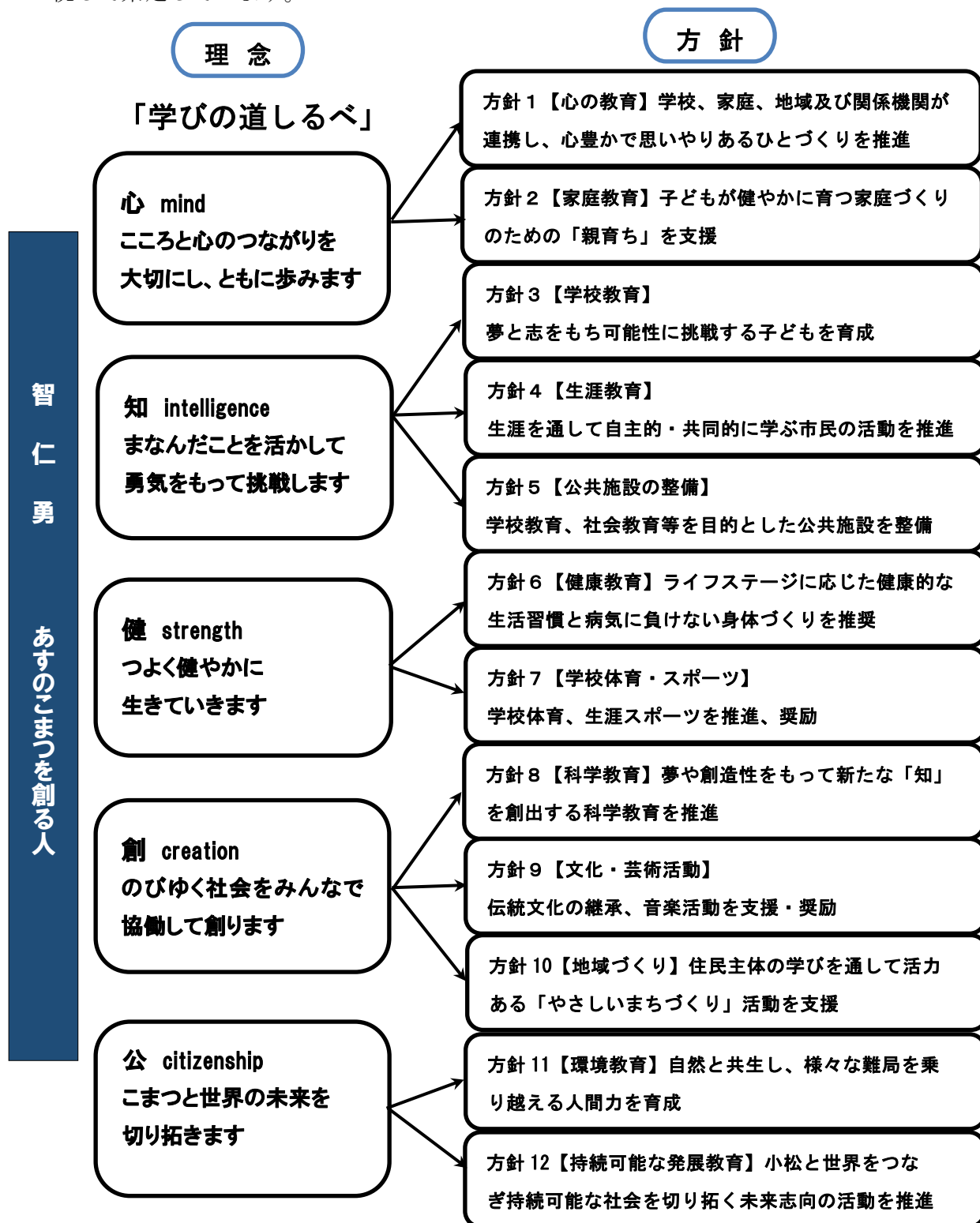
そして、2025 年 4 月には、今後 5 年間の道しるべとなる『こまつの教育大綱 Learn Well, Live Well いつだって、誰だって、新しい可能性を』が策定された。そこで示された 5 つの視点のうち、特に「2. 伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す」、「4. 幼児教育から大学教育までの一貫教育で学びをアップグレード」および「5. 新たな学び・新たなスキルでウェルビーイングを向上」するため、地域の特性を生かした積極的な事業展開を期待したい。またその際には、少子高齢化や人口減少という厳しい社会状況を見据え、参加人数等の単なる量的な数値ではない、よりよい成果を「見える化」する質的な評価も含んだ KPI を設定しつつ、一つひとつの事業に誠実に取り組み、「それぞれの人生を豊かにし、ひいては、それが社会の発展につながるような教育」の実現に邁進していただきたい。

Ⅱ 小松市教育大綱

1 理念及び方針

本市の教育、学術及び文化の振興に関しての総合的な施策の体系を示すため小松市教育大綱 2020 を令和 2 年 4 月に策定しました。この大綱は、教育に関する基本的な計画として策定するもので、「教育基本法」第 17 条第 2 項に基づく本市の「教育振興基本計画」としても位置付けるものです。

また、この大綱は本市の教育理念である「学びの道しるべ」（令和 2 年 3 月改定）を重視して策定しています。



2 アクションプラン

今後の本市教育行政における具体的施策となる「アクションプラン」を策定し、目標の実現に向けて取り組んでいます。

方針 1（心の教育） 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
① 家庭や地域の教育力の向上
方針 2（家庭教育） 子どもが健やかに育つ家庭づくりのための「親育ち」を支援
① 放課後児童クラブによる家庭支援
方針 3（学校教育） 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
① 未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成
② 特色ある高等学校教育
③ 豊かな心の育成
方針 4（生涯教育） 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
① 生涯学習の推進
② 生涯読書の推進
方針 5（公共施設の整備） 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
① 新しい教育や社会の変化に対応した施設整備
② 安全で安心な教育環境の推進
③ 効果的な学習のための環境整備
方針 6（健康教育） ライフステージに応じた健康的な生活習慣と病気に負けない身体づくりを推奨
① 食育の推進
方針 7（学校体育・スポーツ） 学校体育、生涯スポーツを推進、奨励
① 体力・体づくりの推進
方針 8（科学教育） 夢や創造性をもって新たな「知」を創出する科学教育を推進
① 質の高い科学教育の推進
方針 9（文化・芸術活動） 伝統文化の継承、音楽活動を支援・奨励
① ふるさとの文化の理解と伝承
方針 10（地域づくり） 住民主体の学びを通して活力ある「やさしいまちづくり」活動を支援
※「こまつ幸せへの道しるべ」に記載
方針 11（環境教育） 自然と共生し、様々な難局を乗り越える人間力を育成
① SDGs の推進
方針 12（持続可能な発展教育） 小松と世界をつなぎ持続可能な社会を切り拓く未来志向の活動を推進
① グローバルに活躍する人材の育成

Ⅲ 事務事業の点検評価

1 点検評価の概要及び一覧表

○点検評価の概要

教育大綱の実施計画に基づいた46事業について、教育委員会において点検評価を行い、次のA～Dの4段階で達成度を評価しました。

達成度	評価結果	
	事業数	割合(対全事業数)
「A」：十分達成できた	30 事業	65.22 %
「B」：概ね達成できた	16 事業	34.78 %
「C」：やや不十分であった	0 事業	0.00 %
「D」：達成できなかった	0 事業	0.00 %
計	46 事業	100.00 %

○点検評価一覧表

方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進

	担当課	評価	頁
①家庭や地域の教育力の向上			
・グッドマナーキャンペーン事業	生涯学習課	A	8
・少年育成センター事業	生涯学習課	A	9
・小松っ子を育てる市民会議	生涯学習課	A	10
・小松市社会教育賞 小松市スマイルハート賞	生涯学習課	A	11
・自然の中で五感を使った野外体験	農山村創生課	B	12
・西俣自然教室管理運営事業	農山村創生課	A	13

方針2 子どもが健やかに育つ家庭づくりのための「親育ち」を支援

	担当課	評価	頁
①放課後児童クラブによる家庭支援			
・放課後児童クラブ運営事業	生涯学習課	A	14

方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成

	担当課	評価	頁
①未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成			
・学校評価システム	学校教育課	B	15
・学力向上事業	学校教育課	B	16
・学校研究支援事業	学校教育課	B	17
・ICTを活用した学びの推進	教育研究センター	B	18
・研究、研修事業	教育研究センター	A	19
②特色ある高等学校教育			
・総合的な探究の時間の充実による生徒の主体性・社会性の育成	小松市立高校	A	20
・ICTを活用した学習の展開	小松市立高校	B	21
・英語力・コミュニケーション能力の育成	小松市立高校	A	22
③豊かな心の育成			
・道徳教育推進事業	学校教育課	A	23
・キャリア教育推進事業	学校教育課	B	24
・いじめ・不登校対応事業	学校教育課	B	25
・学校及び家庭との連携を旨とした教育相談体制づくり	教育研究センター	A	26
・令和7年小松市成人式～二十歳のつどい～	生涯学習課	A	27

方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進

	担当課	評価	頁
①生涯学習の推進			
・公民館活動推進事業	生涯学習課	B	28
・こまつ市民大学(第7期)	生涯学習課	B	29
・生涯学習施設の運営	生涯学習課	A	30
・青少年育成団体活動への支援事業	生涯学習課	A	31
②生涯読書の推進			
・読書活動の推進	図書館	B	32
・読書活動の推進(おはなし会)	空とこども絵本館	A	33
・読書活動の推進(出張絵本館)	空とこども絵本館	A	34
・読書活動の推進(よんでよんで)	空とこども絵本館	A	35

方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備

	担当課	評価	頁
①新しい教育や社会の変化に対応した施設整備			
・学校施設のリニューアル(小中学校校舎等改修費)	教育庶務課	A	36
・松陽中学校整備費	教育庶務課	A	37
②安全で安心な教育環境の推進			
・教育環境の改善及び充実(小中学校校舎等営繕費)	教育庶務課	A	38
・教育環境の改善及び充実(安全・安心な学校づくり費)	教育庶務課	A	39
③効果的な学習のための環境整備			
・ICT教育環境推進	教育研究センター	A	40
・外国人児童生徒日本語初期指導(日本語指導、キャリア教育)	学校教育課	B	41

方針6 ライフステージに応じた健康的な生活習慣と病気に負けない身体づくりを推奨

	担当課	評価	頁
①食育の推進			
・家庭、地域と連携した食育の推進	学校教育課	A	42
・おいしい学校給食の提供	学校教育課	A	43

方針7 学校体育、生涯スポーツを推進、奨励

	担当課	評価	頁
①体力・体づくりの推進			
・体育教育推進事業	学校教育課	A	44

方針8 夢や創造性をもって新たな「知」を創出する科学教育を推進

	担当課	評価	頁
①質の高い科学教育の推進			
・「楽しむ、学ぶ、挑む」サイエンスの推進	ひととものづくり科学館	A	45
・学校とひととものづくり科学館、教育研究センターの連携(教育施設としての活用)	ひととものづくり科学館	A	46
・学校とひととものづくり科学館と教育研究センターの連携	教育研究センター	B	47

方針9 伝統文化の継承、音楽活動を支援・奨励

	担当課	評価	頁
①ふるさとの文化の理解と伝承			
・子供歌舞伎勸進帳上演事業	生涯学習課	A	48
・郷土の歴史・文化の継承と啓発活動(市史編纂事業)	図書館	A	49

方針11 自然と共生し、様々な難局を乗り越える人間力を育成

	担当課	評価	頁
①SDGsの推進			
・SDGs推進事業	学校教育課	B	50

方針12 小松と世界をつなぎ持続可能な社会を切り拓く未来志向の活動を推進

	担当課	評価	頁
①グローバルに活躍する人材の育成			
・国際都市こまつ青少年交流事業	生涯学習課	B	51
・留学生支援事業	生涯学習課	A	52
・英語教育推進事業	学校教育課	B	53

点検評価票(個別評価票)の「Check(評価)」欄の記載について、実施できた内容に○、不十分だった内容に△をつけています。

点検評価票

アクションプラン区分	方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
	1ー① 家庭や地域の教育力の向上

P l a n (計画)	事業名	グッドマナーキャンペーン事業	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	・青少年の公共マナーに対する規範意識の向上 ・交通ルール遵守の呼び掛け		
D o (実行)	アクションプラン指標	延べ参加者協力者数 R3年度：1,600人 → R6年度：1,800人		
	事業内容	石川県心の教育推進協議会が主催するグッドマナーキャンペーンに小松市も賛同し、学校や心の教育を推進する団体と連携し、声掛け運動を展開するもの。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・マナー指導、あいさつ運動 9月25日(水) 市内3駅…小松駅：41人 栗津駅：33人 明峰駅：33人 【参加した団体】 小松市社会教育委員、石川県青少年育成推進指導員、小松っ子を育てる市民会議、小松市少年育成センター育成員、小松能美保護区保護司会、小松市少年補導員連絡協議会、小松市校下女性協議会、小松地区更生保護女性会、小松市立学校PTA連合会、小松市公民館連合会、小松市民生委員児童委員協議会、ペンギン親子クラブ、小松市退職校長会、石川県退職女性校長会 加賀地区梅の実会 計14団体 市内小中高等学校…自主的な実施		
C h e c k (評価)	点検・評価	○学校や地域と連携し、児童・生徒や市民に対して、公共マナー向上と交通ルールの遵守への意識啓発という事業の目的を果たしている。	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	今後も関係団体や協力機関等と連携し、参加者の確保及び事業内容の見直しを行いながら、継続的に実施していきたい。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
	1-① 家庭や地域の教育力の向上

P l a n (計画)	事業名	少年育成センター事業	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	- 子ども達の健全育成活動の総合的な推進 - 子どもの非行防止と地域の見守り体制の連携強化		
	アクションプラン指標	注意件数 R3：170件 → R6：100件		
D o (実行)	事業内容	子ども達の健全な育成・非行防止を目的とし、育成員による長期休暇等の巡回活動や研修を行う。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・お旅まつり期間及び長期休暇期間（春・夏・冬休み）に巡回活動を実施。 ・4月 育成員委嘱（校区育成員58人、中央育成員52人） ・5月 第1回研修会 ・6月 少年補導センター所長会議 県青少年補導センター連絡協議会総会 ・7月 青少年の非行・被害防止全国強化月間 石川県青少年健全育成「南加賀ブロック会議」 ・10月 第2回研修会		
C h e c k (評価)	点検・評価	○声かけ件数 57件 アクションプラン指標に掲げた目標を上回っている。（声かけ件数が減少した。）		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	青少年を取り巻く環境の変化に対応するため、見守り活動のあり方について継続的に協議する必要がある。より効果的な活動方法について具体的な検討を進め、新たな支援策を模索する必要がある。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
	1-① 家庭や地域の教育力の向上

P l a n (計画)	事業名	小松っ子を育てる市民会議	新規・継続	担当課
	目標・目的	・オールこまつによる青少年の健全育成 ・青少年健全育成推進団体の連携強化 ・家庭と地域の教育力の向上		
	アクションプラン指標	青少年健全育成推進団体の連携を図り、活動の共通化と相乗効果を目指す		
D o (実行)	事業内容	小松市民が一体となって青少年育成について協議し、連絡連携を図り、幅広い活動を展開して、健全な青少年を育成することを目的とする。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・4月 第1回役員会開催 ・5月 小松っ子を育てる市民会議総会 ・6月 社会を明るくする運動啓発標語審査会 ・7月 社会を明るくする運動啓発標語表彰式 - 小松っ子未来郵便説明会、小学校へ配付 ・9月 小松っ子未来郵便実施(～3月) ・10月 第1回広報委員会 ・11月 第2回役員会 ・12月 全体会(小松市公民館大会と合同開催) ・2月 第2回広報委員会 ・3月 第3回役員会 - 小松っ子機関誌第44号発行 - 小松っ子未来郵便郵送		
C h e c k (評価)	点検・評価	○小学4年生に、8年後の18歳になった自分へ手紙を書いて送る「小松っ子未来郵便」を実施。子ども達が自分自身のキャリアを考える事業を展開することができた。 ○「小松っ子未来郵便」は、学校・教員の協力を得ながら、実施している。アンケートの結果も、全学校から、事業の印象は「とても良い・良い」という回答を得た。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	「小松っ子未来郵便」は、キャリア教育の一環として、学校側の理解も得られているが、継続に向け、実施の方法や時期など、柔軟に対応していく。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
	1-① 家庭や地域の教育力の向上

P l a n (計画)	事業名	小松市社会教育賞 小松市スマイルハート賞	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	・社会教育の振興に対する功績を評価・顕彰 ・思いやりの心や規範意識、社会貢献意欲の育成		
	アクションプラン 指標	児童・生徒の活動を表彰することにより、思いやりの心や地域を愛する気持ちを育むとともに、自ら目標を設定し振り返り、行動できる青少年の育成を図る。		
D o (実行)	事業内容	小松市社会教育賞 →本市の社会教育関係者及び社会教育関係団体で、社会教育の振興に尽力し、地域社会の発展に貢献したものを表彰する。 小松市スマイルハート賞 →児童・生徒の個人及び社会の幸福の実現のための主体的な取り組みを表彰する。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・ 8月 被表彰者の推薦依頼 ・ 11月21日 選考委員会 ・ 12月 9日 教育委員会会議・被表彰者決定 社会教育賞 3個人 ・ 12月13日 福祉文教常任委員会 被表彰者について報告 ⇒ 報道発表 ・ 2月 1日 表彰式（小松市社会教育大会）		
C h e c k (評価)	点検・評価	○表彰式とあわせ、小松市教育委員会 教育委員 村井 啓介 氏の講演を実施。 ○スマイルハート賞は応募なし	評価(達成度)	
			A	
A (改善)	課題	選定の透明性を確保し、幅広い社会教育活動の公平な評価に努める。 表彰を通して、市民に社会教育の重要性等を広めていく。	A 十分達成	
			B おおむね達成	
	用語説明	用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
	1ー① 家庭や地域の教育力の向上

(計画) Plan	事業名	自然の中で五感を使った野外体験	新規・継続	担当課																										
			継続	農山村創生課																										
	目標・目的	大杉で自然体験・集団行動を学び、たくましく生きる力を育む																												
	アクションプラン 指標	延べ利用人数 2022年 → 18,000人以上 延べ宿泊人数 2022年 → 8,000人以上																												
(実行) Do	事業内容	大杉の豊かな自然をいかした四季折々の自然体験の機会を提供し、山や里山で耳や目、鼻、手足、味覚等の五感を研ぎ澄まし、あふれる笑顔の拠点として、交流人口の拡大を目指す。    																												
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	- 令和6年度 小中学校 利用実績 市内小中学校利用 32校 延べ利用人数 3,098人 延べ宿泊人数 1,429人 市外小中学校利用 30校 延べ利用人数 4,896人 延べ宿泊人数 2,751人 - 利用実績 <table><tr><td></td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td></tr><tr><td>団体数</td><td>228団体</td><td>166団体</td><td>140団体</td><td>166団体</td></tr><tr><td>延人数</td><td>9,593人</td><td>13,927人</td><td>12,964人</td><td>14,838人</td></tr><tr><td>延宿泊人数</td><td>1,413人</td><td>5,308人</td><td>5,774人</td><td>6,447人</td></tr><tr><td>日帰り人数</td><td>6,930人</td><td>4,845人</td><td>2,731人</td><td>3,413人</td></tr></table> - 歴史や自然が豊かな里山で四季折々を感じることができる自然体験活動を提供した。(登山・ウォークラリー・野外炊さん・岩魚つかみ・川遊び・キャンプ・キャンプファイヤー・クロスカントリースキー・そり遊び・かんじき・木竹工作等)					R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	団体数	228団体	166団体	140団体	166団体	延人数	9,593人	13,927人	12,964人	14,838人	延宿泊人数	1,413人	5,308人	5,774人	6,447人	日帰り人数	6,930人	4,845人	2,731人	3,413人
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																									
団体数	228団体	166団体	140団体	166団体																										
延人数	9,593人	13,927人	12,964人	14,838人																										
延宿泊人数	1,413人	5,308人	5,774人	6,447人																										
日帰り人数	6,930人	4,845人	2,731人	3,413人																										
(評価) Check	点検・評価	○事業を継続実施できた。 △R6年2月下旬に県道「ノア」上に巨岩の落石があり、通行止め迂回路通行となり、バス通行不可となった。4月26日午後より通行止めが解除され、一部片側交互通行区間があるが、大型バスの通行も可能となった。その間、団体と連絡調整を行い、一部予約団体から5月の予約取消しや延期があった。 ○主催事業は、天候に恵まれ、豊かな自然体験活動を行い、親子等の絆を深める活動ができた。 ○自然にふれあい、活動を通じて、共助の心と生きる力を育むと共に、健康の維持・増進に寄与できた。 ○主催事業の参加者募集案内、市内外の小学校への利用案内や保育園等への冬期そり遊びの利用案内のほか、草刈り・除雪等受入れ体制を整え、利用者数の増加につながった。			評価(達成度)																									
				B																										
				A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず																										
(改善) Action	課題	- 施設管理体制(災害・経年劣化等)による施設・設備の故障・危険箇所の修繕・解消)を徹底し、安全安心な施設環境を整備・維持するための予算を確保していくこと。 - 職員の高齢化や交替がある中で、繁忙期の複数団体利用時に諸活動に対応(準備・指導・支援・片付け)する指導員、施設運営職員及び宿直者を確保・維持していくこと。 - 様々なケースに対応するため、職員の技能・知識の取得・向上と心の通った接遇を継続・継承していくこと。																												
用語説明	用語		説明																											

点検評価票

アクションプラン区分	方針1 学校、家庭、地域及び関係機関が連携し、心豊かで思いやりあるひとづくりを推進
	1-① 家庭や地域の教育力の向上

P l a n (計画)	事業名	西俣自然教室管理運営事業	新規・継続	担当課
	目標・目的	豊かな自然環境の中で、川遊びや登山などのレクリエーションを通し、青少年の健全な育成を図ると同時に交流人口の拡大や地域の活性化を目標とする。		
	アクションプラン指標	農業水産課・農山村創生課所管施設交流人口（木場湯公園・道の駅こまつ木場湯・せせらぎの郷・西俣自然教室・西俣キャンプ場・憩いの森・里山自然学校こまつ滝ヶ原・里山自然学校大杉みどりの里） 120万人（R3実績）→ 200万人（R7）		
D o (実行)	事業内容	・山峡の豊かな自然環境の中で、家族や青少年の諸団体が、集団宿泊生活、レクリエーションを通して、相互の心のふれあいを深め、もって青少年の健全育成を推進する。 ・利用者の安全確保に留意すると共に、施設的环境保全、保安警備に努め、良好な施設の管理を行う。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	【利用人数の推移】 （3ヶ年） 令和4年度 235人 令和5年度 455人 令和6年度 428人		
C h e c k (評価)	点検・評価	○新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、市民団体による利用者数は回復傾向にあった。 ○猛暑の影響か、利用数は令和5年度より約6%減少した。 ○熱中症対策と健康管理を徹底した。		評価(達成度)
				A A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず
A (改善)	課題	・西俣を中心とした活性化の取り組みを、隣接するキャンプ場と一体的に推進し、利用者の増加、周知による、地域活性化を目指していく。 ・安全・安心・快適な利用ができるよう、今後も適切な保守・修繕を行う。 ・施設のバリアフリー化など、更なる利用者サービスの向上を図る。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針2 子どもが健やかに育つ家庭づくりのための「親育ち」を支援
	2-① 放課後児童クラブによる家庭支援

P l a n (計画)	事業名	放課後児童クラブ運営事業	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	・保護者の就労支援と放課後における児童の安全・安心な居場所の確保 ・子どもの発達段階を踏まえた健全な育成への支援 ・放課後児童クラブの運営及び質の向上		
	アクションプラン指標	自己評価Aのクラブの割合100%		
D o (実行)	事業内容	日中に保護者が家庭にいない児童に対し、放課後の遊び・生活の場を提供し、子どもの状況や発達段階を踏まえながら、健全な育成を支援する。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	質の向上へ向けた取り組み ・運営基準に基づくクラブの自己評価及び、担当課による実地調査の実施(35クラブ) ・支援員の企画による研修会の実施 ・県等が実施する研修会への参加 ・放課後児童クラブ連絡協議会を対面形式で開催(学校と児童クラブで課題を共有)		
C h e c k (評価)	点検・評価	☐ 全てのクラブにおいて着実に質の向上を図った。 自己評価A：27クラブ 自己評価B：8クラブ ☐ 市内クラブの支援員が集う研修会を開いた。支援員の交流の機会を設けることが出来たと同時に、クラブ間で議論することで切磋琢磨し支援員の意識向上を図った。	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	求められる児童クラブの実現に向けて ・自己評価、実地調査の実施方法の見直し(重点調査項目の設定等) ・支援員の認定資格取得の促進 ・児童数の推移に対応した施設整備及び運営体制の確保		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-① 未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成

P l a n (計画)	事業名	学校評価システム	新規・継続	担当課
	目標・目的	各学校が目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る	継続	学校教育課
	アクションプラン指標	全校における学校評価システムの実施・検証・改善の充実		
D o (実行)	事業内容	- 客観的に現状を分析する学校評価（学校評価1）の作成 - 人材育成のための学校評価（学校評価2）の作成 - 児童生徒、保護者、教職員アンケートの実施		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	- 全ての学校で、小松市の重点目標を踏まえた校長ビジョンの具現化のための学校評価が作成され、定期的に評価・改善を行った。 - 学校のホームページへの掲載や「学校だより」により、学校の取組内容が周知された。 - 児童生徒、保護者、教職員アンケートを実施し、改善点を明確にすることができた。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○学校が重点的に取り組んだ取組について、児童生徒及び保護者、教職員アンケートを評価・改善に生かすことができた。 ○学校関係者評価を通じて、保護者や地域住民等が学校運営について意見交換することで、よりよい改善策を生み出すことができた。	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	学校評価計画や重点項目を広く地域住民等に周知し、学校評価システムのPDCAサイクルをもとに、校長ビジョン具現化のための組織的・継続的な改善が必要。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-① 未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成

P l a n (計画)	事業名	学力向上事業	新規・継続	担当課
	目標・目的	教師の授業改善や指導力向上による、児童生徒の確かな学力の向上		
	アクションプラン指標	「教科の内容がわかる」児童生徒の割合 R3：80%→R6：95%		
D o (実行)	事業内容	・計画訪問や要請訪問時における授業への指導助言 ・学校力向上ロードマップの策定 ・主任指導主事（8名）による要請訪問		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・各校の学校研究に沿ったそれぞれの授業に対し、市「指導の重点」に基づいた指導助言を行うことができた。 ・学校力向上ロードマップを使って、組織的、計画的なPDCAサイクルが確立され、学校ぐるみの学力向上策につながった。 ・主任指導主事（8名）による学校訪問を年間を通じて行い、授業づくりや集団づくりへの指導・助言を行った。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○子供たちに確かな資質・能力を育成するために、各学校が学力向上に向けて検証を行い、改善を図った。 ○主任指導主事の指導助言により、若手教員の授業力向上が見られた。 △「教科の内容がわかる」小：89.5%、中：80.5% (R6国・県質問紙調査)で目標指数の95%には至らず、課題である。		評価(達成度)
				B
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
A c t i o n (改善)	課題	・授業で子供たちの確かな資質・能力を育成するために、「デジタル学習基盤を活用した主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がより一層求められる。 ・特に中学校において、生徒にわかった、できたを実感させる誰一人取り残さない授業づくりが必要である。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-① 未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成

P l a n (計画)	事業名	学校研究支援事業	新規・継続	担当課
	目標・目的	教師の授業改善や指導力向上による、児童生徒の豊かな学力の向上		
	アクションプラン指標	子供達が学びを実感できる授業の実施・検証・改善		
D o (実行)	事業内容	小松市の目指す授業づくりを中心に学校研究を進める指定校が、授業実践と検証を行うことで、授業改善を図る。学びの系統性を意識し、学びを関連づけながら学習を進める授業づくりにより、子供達の学びの深まりや広がりを目指す。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・「誰一人取り残さない多様な個性を生かす未来の学びの実現」に向け、今年度の重点を「学びのBest Balance」と定め、市内での共通実践を図った。 ・校長会・教頭会・教務主任研修・研究主任研修等で目指す授業像についての説明を行った。 ・市内研究推進校の研究発表会を市教委の悉皆研修に位置づけ、目指す授業のモデルを市内教職員に提示した。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○市内研究推進校の授業公開によって、具体的な授業像を市内の教員が共通理解し、指導の改善に活用された。 △「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、深い学びにつながるような授業実践を市内で共有し授業改善を図る。	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	資質、能力を確実に身に付けるために、「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実に向けた授業づくりが必要である。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-① 未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成

P l a n (計画)	事業名	ICTを活用した学びの推進	新規・継続	担当課
			継続	教育研究センター
	目標・目的	ICTを効果的に活用した授業づくりを推進する。		
D o (実行)	アクションプラン指標	ICTを効果的に活用した授業の推進ができています。 R3：80% → R6：100%		
	事業内容	・「GIGAスクール環境を活かした学びの推進事業」研究指定校によるICTを効果的に活用した授業実践 ・「授業デザイン開発チーム」による学習用端末活用の効果的活用法の開発 ・ICT活用研修会の開催 ・GIGA校内研修推進リーダー担当者の会の開催 ・ICTインストラクターによるサポート訪問		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・学習用端末の活用状況（R6児童生徒 授業実践アンケートより） 活用頻度：週3回以上・ほぼ毎日…小学校64%、中学校58% 端末の活用による学習意欲の向上…肯定的回答87% 自分の考えを伝える場面での活用効果…肯定的回答86% 友達と考えを共有する場面での活用効果…肯定的回答89% ・「GIGAスクール環境を活かした学びの推進事業」研究発表会及び「授業開発推進チーム」公開授業研究会において、市内学校に研究の成果を発信した。 ・MicrosoftTeams研修会（初級編・中級編）を開催した。満足度97.9% ・各学校のGIGA研修推進リーダーの担当者会にて実践交流を行った。 ・ICTインストラクターの定期サポート訪問を実施した。		
C h e c k (評価)	点検・評価	△児童生徒は端末活用のよさを実感しているものの、活用状況は、小学校では学校間差、中学校では学校間差に加え教員間差が見られた。 ○「GIGAスクール環境を活かした学びの推進事業」では、研究指定校においてICTを効果的に活用した授業実践を進めることができた。 ○授業デザイン開発チーム公開授業ではICTの活用や教科の授業づくりについて協議することができた。 ○MicrosoftTeams活用研修会を教員のニーズに応じた内容にしたことで多くの教員が参加し研修を行った。 ○GIGA校内研修推進リーダー担当者の会を開催し、各学校での取組について学校間で情報共有を行った。 ○ICTインストラクターのサポート訪問により、各学校の実態に応じた授業支援や校務支援を行うことができた。		評価(達成度)
				B
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
A c t i o n (改善)	課題	・GIGAスクール第1期では、学校間や教師間で取組状況に差がみられたことから、第2期では、デジタル学習基盤を生かした学びの充実に向けて取り組む。 ・クラウド環境を活用した学びのDXと校務DXを一体的に充実させ、学校DXを推進する。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-① 未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成

P l a n (計画)	事業名	研究、研修事業	新規・継続	担当課
	目標・目的	教職員の授業力向上及び指導力向上		
	アクションプラン指標	研究会、研修会参加者の満足度が100%		
D o (実行)	事業内容	・教科研究会において、授業づくりを研究し市内教員に授業公開する。 ・授業改善、児童生徒理解における指導力向上をめざした研修を実施する。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	○授業デザイン開発チーム教科研究会の開催（小学校算数、小学校外国語、中学校国語で年間各7回程度） ○夏季教職員研修として、以下の4講座を開催 ・児童生徒理解講座（参加人数：148人） 講演「発達に特性のある児童生徒へのかかわり方」 NPO法人えじそんくらぶ 代表 高山 恵子 氏 ・夏季教職員研修講座①情報教育（参加人数：109人） 講演「ICTによる授業改善と校内研修の改革」 熊本大学 特任教授 前田 康裕 氏 ・夏季教職員研修講座②授業づくり（参加人数：192人） 講演「『最適化される』学びから『最適化する』学びへ」 大妻女子大学 教授 樺山 敏郎 氏 ・夏季教職員研修講座③特別活動（参加人数：67人） 講演「キャリア形成につながる特別活動の実践」 帝京大学 教授 安部 恭子 氏 ○地域理解講座（初任者研修）の開催（参加人数：26人）		
C h e c k (評価)	点検・評価	○教科研究会では、市内小・中・義務教育学校教員に授業を公開し、授業について協議する機会となり、各教科の特質に合わせた指導と評価について理解を深めることができた。 ○各種研修講座においては、参加した教員の97%が「内容が充実したものであった」などの肯定的な意見が聞かれ、大変有意義であった。 ○地域理解講座（初任者研修）では、小松市外在住の教員も多く、小松のことについて深く学ぶことができた。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
A c t i o n (改善)	課題	・教科研究会は、教材研究から授業構想まで、協働的に授業づくりを行い、授業力向上の良い機会と捉えている。今後も本市の授業改善における課題を踏まえて継続していく。 ・学校の状況や教員のニーズを踏まえた研修を開催することで、充実した研修会となっており、今後も学校全体での取組や個々の教員の指導力向上をめざし、研修内容の充実を図る。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-② 特色ある高等学校教育

P l a n (計画)	事業名	総合的な探究の時間※の充実による生徒の主体性・社会性の育成	新規・継続	担当課
	目標・目的	自己の在り方生き方を考えながら、課題の発見や解決に必要な知識・技能を身に付けるとともに、より良い社会を実現しようとする態度を養う。	継続	小松市立高校
	アクションプラン指標	探究活動を通して他者と協働して課題解決に向けて粘り強く取り組んだ生徒の割合が80%以上		
D o (実行)	事業内容	「総合的な探究の時間」において、地域へ出向き、地域が抱えている課題を発見するとともに、フィールドワークや調べ学習等を通して、課題解決に向けて自律的・協働的に取り組む。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・1年生は、小松のものづくりや伝統工芸などを体感する「GEMBAプロジェクト」に参加したほか、市内企業を訪問するフィールドワークも実施し、社会の課題や解決策を考え話し合い、ポスター制作や発表ができた。 ・2年生は、解決すべきテーマを自分で決め、立案から実践、発表まで主体的かつ協働的に取り組むことができた。 1月に南加賀地区合同探究発表会、3月に課題研究発表会に参加し、自身の成果を発表するとともに、他校の生徒の発表を聞いたり、交流することができた。 ・「総合的な探究の時間における生徒の主体的な取り組みを通して、生徒の表現力や自己発信力が成長した」と思う（よくあてはまる、あてはまると回答した）生徒の割合は82.8%(前年80.4%)、教員81.6%(前年78.6%)と、昨年度より高くなった。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○地域へ出掛けて企業の皆さんや地域の方々と関わることができ、地域の産業や文化についての理解が深まった。自らが地域を盛り上げたい、小松の良さを発信したいという生徒が多く、その実現のために自分たちができることを考え、主体的、協働的に取り組めた。 ○校外で行われた他校も参加する課題研究発表会に参加し、様々な意見を交換することで、発表する力や考察する力を付けることができた。	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	探究活動における3年間の継続的、段階的な学習スケジュールの見直しを行う。 校外での発表を視野に入れた学習スケジュールの見直しや、より発展的な取組への改善を行う。		
用語説明	用語		説明	
	総合的な探究の時間※		生徒が主体的に課題を設定し、情報の収集や整理、分析を行いながら解を求め、資質能力を高めることを目的とする。	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-② 特色ある高等学校教育

P l a n (計画)	事業名	I C Tを活用した学習の展開	新規・継続	担当課
	目標・目的	情報活用能力を育成するとともに、I C Tを適切に活用した学習活動の充実を図り、各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつなげていく。		
	アクションプラン指標	・「I C T機器を積極的に活用して、効率的かつ効果的な工夫した授業を月40回以上行っている」と答えた教員の割合 R3: 45%→R6: 80% ・「先生方はI C T機器を用いて効果的な授業を行っているか」の問いに「よくあてはまる」と答えた生徒の割合 R3: 35%→R6: 80%		
D o (実行)	事業内容	タブレットやプロジェクター等のI C T機器を効果的に利活用し、生徒の理解度や知識の向上、学習意欲が高まる授業を実践する。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・「I C T機器を積極的に活用して、効率的かつ効果的な工夫した授業を月40回以上行っている（よく行っている）」と答えた教員の割合 実績 R3:43.2% → R4:41.7% → R5:48.3% → R6:60.5% ・「先生方はI C T機器を用いて効果的な授業を行っているか」の問いに「よくあてはまる」と答えた生徒の割合 実績 R3:40.6% → R4:43.8% → R5:52.8% → R6:54.9% ・令和4年6月 iPad用タッチペン貸与（現：2.3年生） ・令和4年8月 情報処理室に大型ディスプレイ設置 ・令和5年2月 教室に電子黒板機能付きプロジェクターを整備 ・令和5年3月 A p p l e T V 5台を追加整備		
C h e c k (評価)	点検・評価	○R4年度に全教室に整備した電子黒板機能搭載プロジェクターおよびA p p l e T V等の活用により、導入以降、視覚的にも理解を深められ、指導力の向上および生徒のより深い学びに繋がっている。	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	・新しい機器の効果的な活用方法について研究し、更なる「協働的な学び」につながる工夫を図っていく。 ・I C Tを活用した授業の工夫や学習アプリ等の活用により、生徒の「学びに向かう力」を高めていく。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-② 特色ある高等学校教育

P l a n (計画)	事業名	英語力・コミュニケーション能力の育成		新規・継続	担当課																																								
				継続	小松市立高校																																								
	目標・目的	グローバル社会に対応できる自己発信力を高めるため、英語コミュニケーション能力の向上を目指す																																											
	アクションプラン指標	英語検定「準2級相当」※以上取得率（3年生） R3：45%→R6：60%																																											
D o (実行)	事業内容	グローバル社会に役立つ人材づくりの第一歩として、英語力向上のため英検「準2級相当」以上の取得者を増やす																																											
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・英語検定「準2級相当」以上を取得した生徒数（3年生） 実績 令和6年度 66.2% <table><tr><td></td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>合計</td><td>全生徒数</td><td>全生徒取得率</td><td>3年取得率</td></tr><tr><td>令和3年度</td><td>41人</td><td>88人</td><td>83人</td><td>212人</td><td>493人</td><td>43.0%</td><td>43.9%</td></tr><tr><td>令和4年度</td><td>50人</td><td>104人</td><td>89人</td><td>243人</td><td>450人</td><td>54.0%</td><td>63.1%</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>53人</td><td>96人</td><td>104人</td><td>253人</td><td>446人</td><td>56.7%</td><td>67.5%</td></tr><tr><td>令和6年度</td><td>39人</td><td>97人</td><td>96人</td><td>232人</td><td>444人</td><td>52.3%</td><td>66.2%</td></tr></table> ・1、2年生でGTEC全員受験。2年生で英語検定全員受験。 ・1人1台iPadを活かしたAI型学習アプリ導入により英語基礎力向上を図ったほか、英語科教員による英検対策講座を実施した。					1年	2年	3年	合計	全生徒数	全生徒取得率	3年取得率	令和3年度	41人	88人	83人	212人	493人	43.0%	43.9%	令和4年度	50人	104人	89人	243人	450人	54.0%	63.1%	令和5年度	53人	96人	104人	253人	446人	56.7%	67.5%	令和6年度	39人	97人	96人	232人	444人	52.3%	66.2%
		1年	2年	3年	合計	全生徒数	全生徒取得率	3年取得率																																					
令和3年度	41人	88人	83人	212人	493人	43.0%	43.9%																																						
令和4年度	50人	104人	89人	243人	450人	54.0%	63.1%																																						
令和5年度	53人	96人	104人	253人	446人	56.7%	67.5%																																						
令和6年度	39人	97人	96人	232人	444人	52.3%	66.2%																																						
	点検・評価	○英語検定「準2級相当」以上の全体及び3年生の取得率は令和3年度から大きく向上した。 ○小松市を訪問した米国スティーブン校生徒との対話やハワイの高校生とのオンライン交流、本校での留学生の受け入れなどを通じ、コミュニケーション能力の育成を図ったほか、国際文化への関心や理解を高める機会となった。 ○GTEC奨励賞 2年生 GTECのスコアを伸ばした。 (令和5、6年度 2年連続受賞)																																											
C h e c k (評価)		評価(達成度) A <table><tr><td>A</td><td>十分達成</td></tr><tr><td>B</td><td>おおむね達成</td></tr><tr><td>C</td><td>やや不十分</td></tr><tr><td>D</td><td>達成できず</td></tr></table>				A	十分達成	B	おおむね達成	C	やや不十分	D	達成できず																																
A	十分達成																																												
B	おおむね達成																																												
C	やや不十分																																												
D	達成できず																																												
A (改善)	課題	・（令和7年度から）1、2年生ともに英検を全員受験し、長期での継続的かつ段階的な取組みを行う。 ・4技能の力（聞く・話す・読む・書く）を総合的に伸ばす教科指導を実践していく。 ・1年生より単語学習を定着させ、英語のテスト等のスコアアップを図るとともに、今後も1年生の間から継続した意識付けを行っていく。																																											
用語説明	用語	説明																																											
	英語検定「準2級相当」以上※	大学入試改革に伴い、英検からGTECにシフト GTECスコア(4技能)680点以上が準2級相当以上																																											

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-③ 豊かな心の育成

P l a n (計画)	事業名	道徳教育推進事業	新規・継続	担当課
	目標・目的	道徳の時間の充実を図り、児童生徒の豊かな心の涵養を図る		
	アクションプラン指標	ふるさとに誇りを持ち、自己との関わりを見つめる道徳の授業の実施・検証・改善		
D o (実行)	事業内容	・道徳教育推進校における道徳授業改善の充実及び他校への啓発 ・小松市ふるさと道徳教材「ゆたかな明日へのパスポート」の活用		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・道徳教育推進校（芦城中学校）における、定期的な授業研究及び公開研究授業を行った。著名講師による公開研修会を複数回開催し、ゲストティーチャーの活用を意識した授業実践を行い、授業力の向上を図った。 ・小松市ふるさと道徳教材「ゆたかな明日へのパスポート」を市内全校の道徳年間指導計画に位置づけ、実践した。 ・他教科との関連を図ることで、教育活動全体の中で児童生徒の道徳的な成長が見られた。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○道徳教育推進校における公開研究授業を通して市内の教職員に発信したことで、ゲストティーチャーを活用したよりよい道徳授業の啓発につながった。 ○「小松市ふるさと道徳教材」については、市内のすべての学校で活用された。		評価(達成度)
				A A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず
A (改善)	課題	・道徳教育を中核に据えたカリキュラム・マネジメント、効果的で多様な指導方法（展開の工夫・発問・ICTの活用等）や評価の在り方についての研究を市内全体でより一層進めていくことが大切である。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-③ 豊かな心の育成

P l a n (計画)	事業名	キャリア教育推進事業	新規・継続	担当課
	目標・目的	・ 勤労観を身に付け、自分の将来を見つめながら、集団や社会の中で、主体的に自己を生かそうとする態度や能力を育む ・ 各学年段階におけるキャリア教育の実施、キャリアパスポートの活用		
	アクションプラン指標	全中学校で実施・検証・改善		
D o (実行)	事業内容	・ 地域や学校の状況に応じた様々な職場での体験活動 ・ 職業調べ、職業講話等の職業学習の実施		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	各校、職場体験、職業人・企業等を招いて語る会や職業講話を実施することにより、地域企業への理解や働く意義、自分の将来について考える機会となった。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○各学校の実情に応じた職業学習の実施は、望ましい職業観・勤労観や自己実現を図ろうとする態度を育み、また自分の将来に向けて深く考えることのできるよい機会となった。 ○地域企業と連携してのキャリア教育も進んできている。	評価(達成度)	
			B A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	
A (改善)	課題	・ 職場体験活動の在り方の見直し ・ より目的を明確にした職場体験学習の実施 ・ 地域企業との連携の更なる推進		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成
	3-③ 豊かな心の育成

P l a n (計画)	事業名	いじめ・不登校対応事業	新規・継続	担当課
	目標・目的	いじめ・不登校・暴力行為など問題行動の解消を図る。		
	アクションプラン指標	・全校でいじめを許さない取り組みを実施 ・新規に不登校となる児童生徒を0にする		
D o (実行)	事業内容	・スクールソーシャルワーカー（SSW）の学校訪問および事案対応 ・ステップルームの運営 ・小中学生サミットの推進		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・SSWが定期的に各校への学校訪問を行い、学校の生徒指導の状況を把握し、その都度必要な助言を行った。 ・ステップルームを3校に開設し、相談室機能の充実を図った。 ・小中学生サミットにおいて、楽しい学校を目指し、児童生徒が主体となった全校活動を実施した。また、よりよい人間関係の構築をテーマに設定し、生徒主体で小松の学校目標について話し合った。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○SSWによるこれまでの豊富な経験を基にした先を見通した助言により、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応等生徒指導力の向上が図られた。 △ステップルーム事業により、不登校児童生徒の居場所拡大につながっているが、市全体では不登校数は増加した。 ○小中学生サミットの取組により、児童生徒の主体性、自治活動能力の向上がみられた。	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	・発達や情緒、家庭の問題など、複雑化する様々な要因による不登校児童生徒数が増加しており、さらなる対応策が必要である。 ・様々ないじめ案件に対し、早期対策や認知意識の向上が必要である。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分		方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成	
		3-③ 豊かな心の育成	

P l a n (計画)	事業名	学校及び家庭との連携を目指した教育相談体制づくり	新規・継続	担当課					
	目標・目的	支援が必要な児童生徒に対して、適切な見取り及び情報共有等により、児童生徒への理解を深め、学校と家庭との連携を深められるようにする。	継続	教育研究センター					
	アクションプラン指標	児童生徒一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかな支援の構築に向け、実施、検証、改善を行う。							
D o (実行)	事業内容	・相談者（児童生徒・保護者・学校）の不安や悩みに寄り添い、個に応じた支援をする。 ・学校と家庭、その他専門機関との連携体制の支援をする。							
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・教育相談、ふれあい教室、訪問相談の3部門の職員が参加するリーダー会や合同ミーティングを定期的で開催し、情報共有を行った。 ・支援が必要な児童生徒について、保護者の思いや悩みを聴き、児童生徒の困難さを適切に見取ったうえで、学校や家庭での支援体制について話し合った。 ・学校主催の教育事例検討会や土曜専門相談等において、小児科医や臨床心理士等の専門家や他機関とも連携しながら、校内の相談体制や児童生徒の支援について話し合った。 ・教育相談のべ回数（4,273件） 来所相談（1,490件） 電話相談（1,660件） 訪問相談（990件）							
C h e c k (評価)	点検・評価	○授業を参観したり、学校主催のケース会議に参加したりすることで学校との連携が進み、児童生徒への支援に繋げることができた。 ○ふれあい教室及び相談部等と学校が連携し、校内別室登校や授業への参加に繋がるケースもあった。 ○相談3部門の情報を共有することで、教育相談からふれあい教室通室へと繋がった。また、訪問相談から教育相談やふれあい教室へと繋がることもあった。 ○学校や他の専門機関と情報や見取りを共有し、福祉や医療分野からの支援ができた。また、他機関同志の連携により、支援の輪が広がったケースもあった。	評価(達成度)						
			A <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>A</td><td>十分達成</td></tr> <tr><td>B</td><td>おおむね達成</td></tr> <tr><td>C</td><td>やや不十分</td></tr> <tr><td>D</td><td>達成できず</td></tr> </table>		A	十分達成	B	おおむね達成	C
A	十分達成								
B	おおむね達成								
C	やや不十分								
D	達成できず								
A (改善)	課題	新規相談件数は昨年度より減少したが、校内の教育相談体制や校内ステップルームが機能しているためと考えられる。一方で、相談の内容は多岐にわたり、複雑でより深刻なケースが増えている。今後も相談3部門で情報共有し、子供たちの社会的自立に向けて学校や家庭、外部機関と連携をとりながらそれぞれの状況に応じた支援を継続して行う。							
用語説明		用語	説明						

点検評価票

アクションプラン区分		方針3 夢と志をもち可能性に挑戦する子どもを育成		
		3-③ 豊かな心の育成		

P l a n (計画)	事業名	令和7年小松市成人式～二十歳のつどい～	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	・対象者が二十歳としての自覚と責任を持つきっかけづくり ・ふるさとに対する誇りを持ち、絆を再認識する演出 ・周りの人やふるさとへの感謝の気持ちを醸成		
	アクションプラン指標	式典を通し、参加者が二十歳としての自覚と責任を持つ機会をつくる。		
D o (実行)	事業内容	小松市成人式～二十歳のつどい～の実施		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	令和7年小松市成人式～二十歳のつどい～開催 令和7年1月12日(日) 11:00 義経アリーナ(小松市末広体育館) 出席者 851人(対象者の80.7%)		
C h e c k (評価)	点検・評価	○式次第の紙配布をやめて大型モニターに投影するなど、事務の効率化を進めた。式典後の集合写真撮影時の誘導業務を見直し、時間短縮と参加者の負担軽減につなげた。 ○知的障がいや感覚過敏等の障がいがある方が理由で成人式参加に不安がある方のために、末広野球場会議室にサテライト会場を設け、式典の模様をライブ配信した(ふれあい福祉課が担当)。なお、本会場である末広体育館でも、車いす参加者等を受け入れた。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	だれもが参加しやすい会場づくりを進める		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-① 生涯学習の推進

P l a n (計画)	事業名	公民館活動推進事業	新規・継続	担当課																																																											
			継続	生涯学習課																																																											
	目標・目的	地域の連携と自治力を高め、地域に根ざした生涯学習活動の推進																																																													
D o (実行)	アクションプラン指標	・市立公民館生涯学習講座（講座数・延べ参加者数） R3：80講座7,000人 → R6：100講座11,500人																																																													
	事業内容	・生涯学習講座の開催 市立公民館9館及び中央公民館で、健康や趣味などの講座を開催 市民は、住む地域に限らずどの公民館でも受講が可能 参加費は、1回につき大人200円、子供100円																																																													
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	計106講座を開催し、延べ10,265人が参加した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>公民館</th><th>実施講座数</th><th>講座</th><th>実施回数</th><th>延参加者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稚松</td><td>13</td><td>小松原大学、キッズ英語教室、スマホ教室等</td><td>57</td><td>595</td></tr> <tr> <td>芦城</td><td>12</td><td>Jr.百人一首教室、Jr.絵画教室、ピラティス等</td><td>176</td><td>2,091</td></tr> <tr> <td>国府</td><td>9</td><td>太極拳教室、ヨガ教室、水引教室</td><td>29</td><td>275</td></tr> <tr> <td>松東</td><td>7</td><td>健康体操教室、絵手紙教室、書道教室等</td><td>91</td><td>532</td></tr> <tr> <td>松陽</td><td>14</td><td>ピラティス教室、ハンドメイド教室、ガーデニング教室等</td><td>126</td><td>2,141</td></tr> <tr> <td>安宅</td><td>11</td><td>歴史文化教室、うたごえ教室、水彩画教室等</td><td>109</td><td>1,031</td></tr> <tr> <td>南部</td><td>12</td><td>生け花教室、書道教室、スマホ教室等</td><td>88</td><td>1,105</td></tr> <tr> <td>第一</td><td>12</td><td>家庭菜園講座、こども将棋教室、防災セミナー等</td><td>69</td><td>857</td></tr> <tr> <td>板津</td><td>11</td><td>ヨガ教室、エアロビクス教室、ハンドメイド教室等</td><td>111</td><td>1,314</td></tr> <tr> <td>中央</td><td>5</td><td>英会話教室、料理教室、ヨガ教室等</td><td>45</td><td>324</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>106</td><td></td><td>901</td><td>10,265</td></tr> </tbody> </table>			公民館	実施講座数	講座	実施回数	延参加者数	稚松	13	小松原大学、キッズ英語教室、スマホ教室等	57	595	芦城	12	Jr.百人一首教室、Jr.絵画教室、ピラティス等	176	2,091	国府	9	太極拳教室、ヨガ教室、水引教室	29	275	松東	7	健康体操教室、絵手紙教室、書道教室等	91	532	松陽	14	ピラティス教室、ハンドメイド教室、ガーデニング教室等	126	2,141	安宅	11	歴史文化教室、うたごえ教室、水彩画教室等	109	1,031	南部	12	生け花教室、書道教室、スマホ教室等	88	1,105	第一	12	家庭菜園講座、こども将棋教室、防災セミナー等	69	857	板津	11	ヨガ教室、エアロビクス教室、ハンドメイド教室等	111	1,314	中央	5	英会話教室、料理教室、ヨガ教室等	45	324	合計	106		901
公民館	実施講座数	講座	実施回数	延参加者数																																																											
稚松	13	小松原大学、キッズ英語教室、スマホ教室等	57	595																																																											
芦城	12	Jr.百人一首教室、Jr.絵画教室、ピラティス等	176	2,091																																																											
国府	9	太極拳教室、ヨガ教室、水引教室	29	275																																																											
松東	7	健康体操教室、絵手紙教室、書道教室等	91	532																																																											
松陽	14	ピラティス教室、ハンドメイド教室、ガーデニング教室等	126	2,141																																																											
安宅	11	歴史文化教室、うたごえ教室、水彩画教室等	109	1,031																																																											
南部	12	生け花教室、書道教室、スマホ教室等	88	1,105																																																											
第一	12	家庭菜園講座、こども将棋教室、防災セミナー等	69	857																																																											
板津	11	ヨガ教室、エアロビクス教室、ハンドメイド教室等	111	1,314																																																											
中央	5	英会話教室、料理教室、ヨガ教室等	45	324																																																											
合計	106		901	10,265																																																											
C h e c k (評価)	点検・評価	○異文化理解講座や防災講座、マナーセミナー教室等、新規講座の拡充を図った。 ○受講者数1,482人に対し新規受講者は903人（60.9%）であった。		評価(達成度)																																																											
				B																																																											
				A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず																																																											
A (改善)	課題	性別、年齢等に関わらず全ての住民の「学ぶ意欲」に応じていくため、各公民館のさらなるレベルアップが必要である。講座の企画力やPR力など、職員のスキルアップを図りたい。																																																													
用語説明	用語		説明																																																												

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-① 生涯学習の推進

P l a n (計画)	事業名	こまつ市民大学（第7期）	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	・地域社会で活躍する人材の育成 ・生涯を通じた学び直しとチャレンジの支援		
	アクションプラン指標	・延べ受講者数 R3(第4期)：270人 → R6(第7期)：400人 レギュラーコース：70人増、ジュニアコース：60人増		
D o (実行)	事業内容	・講座の開講 開講期間：令和6年9月～令和7年8月 受講料等：登録料 1,000円 受講料 2,000円～8,000円		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	講座数：21講座（ジュニアコース1講座含む） 延べ受講者数：264人（ジュニアコース7人含む） ※令和7年3月31日時点		
C h e c k (評価)	点検・評価	○講座開催の周知において、広報紙への掲載のほか、市SNS（フェイスブックやX）への投稿や市内路線バスでの動画配信などを実施した。 ○若い世代にも興味を持ってもらえるよう、「ウェルビーイング」や「話し方・コミュニケーション」をテーマとした新たな講座を設定した。 ○第6期（令和5年9月～令和6年8月実施）終了時点で、一定の単位を取得した受講者に以下の称号を授与した。 ・チャレンジャー（10単位取得） 8人 ・マイスター（15単位取得） 2人 ・レジェンド（20単位） 2人		評価(達成度)
				B
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A c t i o n (改善)	課題	受講者は、每期、60代以上が6割前後を占め、固定化も進んでいる。 他の生涯学習講座を含め、さまざまな世代に多様な学びの機会を提供できるよう、講座のあり方について検討していく。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-① 生涯学習の推進

P l a n (計画)	事業名	生涯学習施設の運営	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	市民の生涯学習の場としての生涯学習センターの活用		
D o (実行)	アクションプラン指標	稼働率の向上、利用者数の拡大		
	事業内容	- 施設の管理運営、施設の修繕・改修など - 指定管理者制度の導入 芦城センター 第一地区コミュニティセンター		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	利用者数 [芦城センター] R4年度 50,337人 R5年度 52,743人 R6年度 58,051人 [第一地区コミュニティセンター] R4年度 43,822人 R5年度 56,587人 R6年度 63,454人		
C h e c k (評価)	点検・評価	○令和6年能登半島地震で公会堂が利用出来なくなったことに伴い、芦城センターや第一コミセンの利用者が大きく増えた。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
A c t i o n (改善)	課題	利用者の増加や猛暑によるエアコン使用時間の延長に伴い、収支予算に無理が生じている。受益者負担の観点から、施設使用料や空調設備使用料の見直しが必要。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-① 生涯学習の推進

P l a n (計画)	事業名	青少年育成団体活動への支援事業	新規・継続	担当課
	目標・目的	・オールこまつによる青少年の健全育成 ・青少年健全育成推進団体の連携強化 ・家庭と地域の教育力の向上		
	アクションプラン指標	各団体の活動の活性化を目指す		
D o (実行)	事業内容	組織的に青少年に対する教育活動を行う団体に対して運営助成を行うことにより、地域の青少年健全育成活動の活性化を図る。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	青少年健全育成団体への運営補助金を交付 ・小松市子ども会連合会 ・小松市立学校PTA連合会 ・日本ボーイスカウト小松協議会 ・小松市公民館連合会		
C h e c k (評価)	点検・評価	○各団体に対して運営助成を行うことにより、地域の青少年健全育成活動が幅広く実施された。	評価(達成度)	
			A	
A c t i o n (改善)	課題	各団体が社会教育委員と連携し、より効果的な青少年健全育成活動が実施できるような仕組みづくりをしていく必要がある。	A 十分達成	
			B おおむね達成	
	用語説明	用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-② 生涯読書の推進

P l a n (計画)	事業名	読書活動の推進		新規・継続	担当課																														
				継続	図書館																														
	目標・目的	生涯にわたり読書に親しめる環境の整備、市民の読書活動を推進する。																																	
	アクションプラン 指標	貸出人数・貸出冊数の増加 貸出人数 (R3→R6比／本館5.6万人→5.9万人、南部1.9万人→2.2万人) 貸出冊数 (R3→R6比／本館22.9万冊→24万冊、南部8万冊→9万冊) 利用者の施設・サービス等の満足度の向上 (R3→R6比／10%向上)																																	
D o (実行)	事業内容	読書活動の推進、図書館利用サービスの充実、図書館の安心・安全な環境づくり、学校・他施設との連携等を運営方針として、図書の貸出・購入、移動図書館車の活用、図書館事業（ビブリオバトル・読み聞かせ・テーマ展示等）を行う。																																	
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<table><tr><td></td><td></td><td>R6年度</td><td>R5年度</td><td>対前年度比</td></tr><tr><td rowspan="3">図書館本館</td><td>貸出者数 (人)</td><td>53,396</td><td>54,703</td><td>-1,307</td></tr><tr><td>貸出冊数 (冊)</td><td>204,498</td><td>211,552</td><td>-7,054</td></tr><tr><td>利用者満足度 (%)</td><td>76.3</td><td>73.6</td><td>2.7</td></tr><tr><td rowspan="3">南部図書館</td><td>貸出者数 (人)</td><td>19,529</td><td>20,610</td><td>-1,081</td></tr><tr><td>貸出冊数 (冊)</td><td>77,925</td><td>83,758</td><td>-5,833</td></tr><tr><td>利用者満足度 (%)</td><td>92.9</td><td>92.7</td><td>0.2</td></tr></table>						R6年度	R5年度	対前年度比	図書館本館	貸出者数 (人)	53,396	54,703	-1,307	貸出冊数 (冊)	204,498	211,552	-7,054	利用者満足度 (%)	76.3	73.6	2.7	南部図書館	貸出者数 (人)	19,529	20,610	-1,081	貸出冊数 (冊)	77,925	83,758	-5,833	利用者満足度 (%)	92.9	92.7
		R6年度	R5年度	対前年度比																															
図書館本館	貸出者数 (人)	53,396	54,703	-1,307																															
	貸出冊数 (冊)	204,498	211,552	-7,054																															
	利用者満足度 (%)	76.3	73.6	2.7																															
南部図書館	貸出者数 (人)	19,529	20,610	-1,081																															
	貸出冊数 (冊)	77,925	83,758	-5,833																															
	利用者満足度 (%)	92.9	92.7	0.2																															
C h e c k (評価)	点検・評価	○夏季開館時間の延長を行い、読書サービスの提供・充実に努めた。 ○ビブリオバトルは中学生大会と小学生大会を実施した。 (中学生大会は県大会として実施し、優勝者は全国大会に出場) ○おはなし会、読み聞かせ講座、各種ワークショップ、芦城公園周辺施設と連携した音さんぽ、図書館カフェを実施した。移動図書館車事業も計画どおり実施した。 ○利用者登録と本のリクエスト申請に電子申請サービスを導入し、サービスの向上を図った。 △貸出冊数、貸出者数共に減少となった。 ○利用者満足度は本館・南部図書館共に上昇した。			評価(達成度)																														
					B																														
				A 十分達成																															
				B おおむね達成																															
				C やや不十分																															
				D 達成できず																															
A (改善)	課題	・テーマ展示や読書イベント等、市民ニーズを捉えながら関係機関とも連携し、読書活動推進、図書館事業の充実を図っていきたい。 ・新たに導入した電子申請サービスのさらなる周知を図るなど、利用者サービスの向上に努めたい。																																	
用語説明	用語		説明																																

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-② 生涯読書の推進

P l a n (計画)	事業名	読書活動の推進（おはなし会）	新規・継続	担当課
	目標・目的	・絵本の楽しさを伝える。絵本の世界を楽しむ。		
	アクションプラン指標	貸出人数・貸出冊数の増加 貸出人数（R3→R6比／7.7千人→9千人） 貸出冊数（R3→R6比／4.5万冊→5.5万冊） 利用者の施設・サービス等の満足度の向上（R3→R6比／10%向上）		
D o (実行)	事業内容	・【定例おはなし会】毎月23日（もしくは22日）こまつ市民読書の日にテーマに沿って10：30から開催。 ・【日曜あさのおはなし会】毎月第1日曜日の10：30から開催。 ・【クリスマスおはなし会】12月に開催。 ・【ぴよぴよおはなし会】毎月第3金曜日の10：30から開催（R4から新設）		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・令和3年度参加者 291人 ・令和4年度参加者 733人 ・令和5年度参加者 786人 ・令和6年度参加者 888人		
C h e c k (評価)	点検・評価	○乳幼児とその保護者を対象に、通常のおはなし会にあわせて、公立小松大学教授の協力のもと「赤ちゃん体操」を実施した。読み聞かせと親子でのスキンシップを体験してもらい、親子で触れあう機会を提供し、絵本館の利用促進につながった。 ○日本語を母語としない子どもたちへの取り組みとして、また、多文化に触れ合う機会として、多言語（英語・ポルトガル語）によるおはなし会を実施した。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
A (改善)	課題	通常とは異なる内容の時は、参加者数が大幅に伸びるが、通常のおはなし会の参加者は一定数のままであり、参加者数に伸び悩みがある。その要因を検討し、おはなし会の開催がイベントとして終わるのではなく、子どもと本を結ぶことにつながることを再認識して実施していく。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-② 生涯読書の推進

P l a n (計画)	事業名	読書活動の推進（出張絵本館）	新規・継続	担当課
	目標・目的	高齢者や学童など、絵本館に足を運ぶことが難しいと思われる人たちに絵本の魅力を伝える。絵本を楽しんでもらう。		
	アクションプラン指標	貸出人数・貸出冊数の増加 貸出人数（R3→R6比／7.7千人→9千人） 貸出冊数（R3→R6比／4.5万冊→5.5万冊） 利用者の施設・サービス等の満足度の向上（R3→R6比／10%向上）		
D o (実行)	事業内容	毎月第2、第4木曜日の整理休館日の午後を利用して、施設等に出向き絵本の読み聞かせや紙芝居の紹介を行う。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	- 令和3年度参加者 166人 - 令和4年度参加者 311人 - 令和5年度参加者 870人 - 令和6年度参加者 979人		
C h e c k (評価)	点検・評価	○新たに訪問する施設も増え、「楽しかった」「また来てほしい」という感想をいただいた。  『出張絵本館』（高齢者施設）の様子 ○高齢者施設への訪問時は、小松の民話絵本や音読、手遊びなどもプログラムに取り入れ、高齢の方にも絵本に親しめるよう工夫した。		評価(達成度)
				A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず
A (改善)	課題	今後も他施設との連携を増やし、積極的に絵本を提供する機会を広げたい。		
用語説明	用語	説明		

点検評価票

アクションプラン区分	方針4 生涯を通して自主的・共同的に学ぶ市民の活動を推進
	4-② 生涯読書の推進

P l a n (計画)	事業名	読書活動の推進（よんでよんで）	新規・継続	担当課
	目標・目的	・声に出して読んでもらいながら絵を眺めるという、絵本本来の楽しさを伝える。 ・1冊の絵本を共に読むことで大人と子どものつながりを深める機会とする。		
	アクションプラン指標	貸出人数・貸出冊数の増加 貸出人数（R3→R6比／7.7千人→9千人） 貸出冊数（R3→R6比／4.5万冊→5.5万冊） 利用者の施設・サービス等の満足度の向上（R3→R6比／10%向上）		
D o (実行)	事業内容	毎月23日（もしくは22日）のこまつ市民読書の日に、絵本館スタッフが1対1で希望者のために読み聞かせをする。1人につき2冊まで。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・令和3年度参加者 190人 ・令和4年度参加者 358人 ・令和5年度参加者 440人 ・令和6年度参加者 670人		
C h e c k (評価)	点検・評価	○絵本を読んでもらう楽しさを十分に体験してもらうことができた。 		評価(達成度)
		○読んでもらった絵本や紙芝居を自宅でも楽しむため、貸し出しを利用する親子が増えた。 『よんでよんで』の様子		A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず
A (改善)	課題	子どもと共に絵本を読むことの楽しさや安らぎを多くの人が実感できるよう、今後も積極的に参加を促す。年々、参加者数が増加しており、これを機に継続した絵本館の利用につながるような工夫をしていきたい。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
	5-① 新しい教育や社会の変化に対応した施設整備

P l a n (計画)	事業名	学校施設のリニューアル (小中学校校舎等改修費)	新規・継続	担当課
	目標・目的	老朽化した学校施設の改修や空調復旧工事等を実施することで、教育環境の機能向上を図る。		
	アクションプラン指標	新しい教育内容や社会のニーズに沿った施設改修		
D o (実行)	事業内容	学校施設の空調復旧工事、体育館改修工事、設備更新の実施 等 【主な内容】 ・空調復旧工事：空調設備の更新、個別空調化 ・体育館改修工事：照明LED化 ・設備更新：キュービクル更新 等		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<小学校> ・空調復旧工事（2ヵ年工事の1年目）（能美） ・空調復旧工事実施設計（国府、木場）・校舎改修工事実施設計（木場） ・体育館照明LED化（向本折、東陵）・油入変圧器更新工事（稚松） ・空調修繕工事（犬丸、蓮代寺、月津、東陵） ・小荷物専用昇降機修繕工事（木場、東陵） <中学校> ・空調修繕工事（松陽、御幸、南部）・昇降機改修工事（芦城、丸内） ・小荷物専用昇降機修繕工事（芦城、板津） ・キュービクル更新工事（板津）		
C h e c k (評価)	点検・評価	○空調機の修繕、体育館照明のLED化など、安全な教育環境を整備することができた。 ○キュービクルや、油入変圧器などの老朽化した設備の更新ができた。	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	・空調復旧工事は前回工事から年数が経過し、老朽化が進んできている。今後も計画的に工事を実施していく必要がある。 ・概ね計画どおりの工程管理ができた。 工事現場における4週8休の実施が求められるようになり、夏休みの集中工事が難しくなっている。今後はより一層工程管理をしていく必要がある。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
	5-① 新しい教育や社会の変化に対応した施設整備

P l a n (計画)	事業名	松陽中学校整備費	新規・継続	担当課
	目標・目的	子どもたちの学ぶ意欲を支え、豊かな心と夢を育む学校づくりへ向け、松陽中学校の整備を行う		
	アクションプラン指標	新しい教育内容や社会のニーズに沿った施設改修		
D o (実行)	事業内容	松陽中学校の教室棟新築工事及び既存校舎改修工事 令和6年度 プロポーザル競技に基づく基本設計・実施設計 市道付替工事・上下水道移設工事の実施設計、地質調査 令和7年度 市道付替工事（予定） 令和8年度～ 建設工事着手（予定）		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	【令和6年度の実績】 プロポーザル競技に基づく基本設計・実施設計 校舎整備検討懇話会の開催 3回		
C h e c k (評価)	点検・評価	○選定された案にもとづく校舎の基本設計・実施設計が完了した。 ○校舎整備に係る道路の整備について、関係課と地域を交えての検討懇話会を開催することにより、共通認識のもと市道付替工事・上下水道移設工事の実施設計へつなげることができた。		評価(達成度)
				A A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず
A (改善)	課題	令和8年度以降の工事着手に向け、懸案事項の確認や工程管理、予算確保が課題。 工事着手後も生徒の安全確保の徹底、計画どおりの工程管理が必要。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
	5-② 安全で安心な教育環境の推進

P l a n (計画)	事業名	教育環境の改善及び充実 (小中学校校舎等営繕費)	新規・継続	担当課
	目標・目的	老朽化した学校施設の小規模修繕及び改修を実施することで、教育環境の維持並びに機能向上を図る。		
	アクションプラン指標	学校要望を踏まえた環境改善を毎年全校で実施。環境改善校100%		
D o (実行)	事業内容	学校施設の小規模修繕及び改修の実施、法定点検指導に基づく修繕、改修工事 【主な修繕、改修内容】 ・消防設備（防火ダンパ、防火シャッター等）修繕 ・エレベータ修繕 ・雨漏り箇所修繕 ・空調修繕 等		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<小学校>小修繕 119件、工事22件（執行率98.93%） ・給食室床改修工事（蓮代寺）・屋上防水修繕工事（東陵） ・理科室並びに音楽室空調機更新工事（那谷） ・非常放送設備更新（日末）・防火ダンパ修繕（栗津、串） ・消防点検後修繕、エレベータ修繕、空調修繕 ・特別支援学級対応修繕 等 <中学校>小修繕 54件、工事10件（執行率97.19%） ・空調機更新工事（南部）・冷却水ポンプ更新工事（松陽） ・高圧ケーブル更新工事（芦城、南部） ・ガスヒートポンプ修繕工事（丸内） ・ろ過装置修繕、エレベータ修繕 等		
C h e c k (評価)	点検・評価	○「安全・安心な学校づくり費」とのすみ分けにより、消防設備や自家用電気工作物、エレベータなど、児童生徒の安全面に関する修繕について、優先順位をつけ必要な修繕を計画的に実施することができた。 ○放送設備など、老朽化した設備の更新を実施した。 ○翌年度の特別支援学級増設等に対応するため、必要な修繕等を行い、きめ細やかに対応できた。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	学校生活を送るうえで機能の維持や児童生徒の安全対策として必要な修繕・改修を優先度を考慮し計画的に実施していくことが必要である。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
	5-② 安全で安心な教育環境の推進

P l a n (計画)	事業名	教育環境の改善及び充実 (安全・安心な学校づくり費)	新規・継続	担当課
	目標・目的	学校施設における遊具や体育設備の更新、安全対策の充実を図り、より良い教育活動の実現を目指す。		
	アクションプラン指標	学校要望を踏まえた環境改善を毎年全校で実施。環境改善校100%		
D o (実行)	事業内容	学校要望を踏まえた上で、児童・生徒が日々使用する施設や設備を修繕・新設 【主な内容】 ・教育活動の充実 ・学校施設の安全対策 ・遊具の更新、体育設備の更新 ・危険樹木の伐採 等		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	<小学校>修繕27件、工事17件、業務ほか8件(執行率98.37%) ・遊具更新(苗代、蓮代寺、串) ・電気錠取付工事(第一、栗津)・体育館床塗装修繕(向本折) ・講堂ドア改修(国府)・グラウンド補修、フェンス改修 等 <中学校>修繕8件、工事9件(執行率98.05%) ・自転車置き場設置(芦城)・バスケットゴール更新(松陽) ・日よけブラインド取替(板津)・フェンス設置(国府) ・バリカー設置(南部)・生徒玄関ドア改修(安宅) 等		
C h e c k (評価)	点検・評価	○学校の要望に沿いながら実施することができ、満足度が向上した。 ○遊具の更新、バリカー設置、フェンス設置工事など、安全な教育環境の充実を図ることができた。 ○危険木や枯木の伐採を行い、安全な教育環境を整備することができた。	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	全校からの要望に沿い、概ね計画どおりに実施できた。 今後も学校の要望事項に沿いながら、計画的に実施していきたい。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
	5-③ 効果的な学習のための環境整備

P l a n (計画)	事業名	ICT教育環境推進	新規・継続	担当課
	目標・目的	ICTを活用した授業及び活動を推進するため、ICT環境を整備する。		
	アクションプラン指標	ICT環境の整備計画の検証、改善を行い、充実を図る。		
D o (実行)	事業内容	ICT教育環境の整備		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・65インチ大型モニターを市内30校に配備した。 ・学習用端末（指導者用）を市内31校に更新配備した。 ・小学4年～中学3年に対し、A I 型学習ドリルを授業や家庭学習で活用した。 ・GIGAスクール運営支援センター整備事業として、教育情報セキュリティポリシー改訂及び研修支援、夏季休業中ヘルプデスク開設、教職員等を対象としたICT研修、学習用端末メンテナンス業務を実施した。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○各校でのICT環境整備を計画に従って進めることができた。 ○A I 型学習ドリルを利用することで、児童生徒の7割以上から、学んだことが身につくと感じるとの回答を得られた。 ○ICTインストラクターを各校へ派遣し、校内研修や授業での学習用端末の活用に係る支援や、機器等のメンテナンスを実施できた。		評価(達成度)
				A A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず
A (改善)	課題	・デジタル学習基盤を生かした学びの充実や学校D Xの推進に資するICT環境の整備を行う。 ・市内学校に、大型提示装置を計画的に配備する。 ・市内学校の教育ネットワークの通信状況の安定を図る。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針5 学校教育、社会教育等を目的とした公共施設を整備
	5-③ 効果的な学習のための環境整備

P l a n (計画)	事業名	外国人児童生徒日本語初期指導 (日本語指導、キャリア教育)	新規・継続	担当課
	目標・目的	外国人児童生徒への適切な支援を行う。		
	アクションプラン 指標	日本語指導が必要な児童生徒への学習支援の充実・検証・改善		
D o (実行)	事業内容	外国人児童生徒教育支援事業		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・日本語通級指導教室（芦城小学校…児童16人 教員1人・第一小学校…児童20人 教員1人）にて、日本語指導が必要な児童に対して個別の支援を行った。 ・日本語初期指導教室（稚松小学校内…児童14人 教員1人、母語指導者1人 室長1人）にて、初来日で日本語が理解できない児童に対して日本語初期指導や日本の学校への適応指導を行った。 ・日本語通級教室設置校以外に在籍している日本語指導が必要な児童生徒に対しては、日本語支援員を派遣して支援を行った。 ・保護者に対する通訳・翻訳支援を行った。 ・日本語指導に関する研修会を実施した。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○個別の指導計画に関する研修会を実施したことにより、子どもの実態に応じた日本語指導につながった。 ○日本語初期指導でのきめ細かな指導により、初期の日本語や学校生活について学ぶことができ、在籍校で安心して過ごせるようになった。 ○日本語支援員を定期的に派遣することで、日本語指導が必要な児童生徒に対して個別の日本語指導を行うことができた。	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	新就学の児童や保護者へ本事業を周知することで外国人児童の新就学が円滑に進むようにする。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針6 ライフステージに応じた健康的な生活習慣と病気に負けない身体づくりを推奨
	6-① 食育の推進

P l a n (計画)	事業名	家庭、地域と連携した食育の推進	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	地産地消や地域の食文化を学ぶことにより食に対する興味関心を高める		
D o (実行)	アクションプラン指標	児童生徒に実施したアンケートで「給食がおいしい」と答える割合 R3：85%→R6：95%		
	事業内容	・地場産物や旬のおいしい食材の給食メニューへの導入推進（地元産の蛍米、小松とまと、たけのこ、千石豆など） ・学校ごとの地域性を活かした食育活動（生産現場の見学等） ・「中学生学校給食献立コンクール受賞献立」の実施 ・栄養教諭（栄養士）による食育の授業（支援）の実施		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・時季に合わせた旬のおいしい食材を使用した給食の提供を行った。 ・毎年県主催で行われる中学生学校給食献立コンクールにて賞を受賞した献立を給食メニューに取り入れ、生徒が考えた地場産物を取り入れた献立の紹介をし、地元食材についての理解を深めた。 ・学年の実態に応じた食育の授業を実施できた。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○「給食はおいしいですか」というアンケートに対して「おいしい」「どちらかといえばおいしい」と肯定的に回答した児童生徒の割合 令和5年度（全校を対象にアンケート） 小学校 95% 中学校 94% 令和6年度（全校を対象にアンケート） 小学校 96% 中学校 95%	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	・食育の観点からのアンケートを実施し、さらなる質の向上のための視点を獲得することが必要。 ・食材費高騰の折でも、給食の質を落とすことなく、安全・安心でおいしい給食の安定的な提供。 ・「給食だより」や各学校のホームページ等で旬のおいしい食材についても紹介することでより地場産物について理解を深めていく。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針6 ライフステージに応じた健康的な生活習慣と病気に負けない身体づくりを推奨
	6-① 食育の推進

P l a n (計画)	事業名	おいしい学校給食の提供	新規・継続	担当課
	目標・目的	おいしい学校給食の提供することで食に対する興味関心を高める		
	アクションプラン指標	児童生徒に実施したアンケートで「給食がおいしい」と答える割合 R3：85%→R6：95%		
D o (実行)	事業内容	・栄養バランスを考え、学校関係者及び保護者、業者等による給食献立の作成（献立調整委員会の開催） ・栄養士、調理員及び学校、保護者代表による物資の選定		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・各校から提出される献立反省表や残食量のデータをもとにした献立作成。 ・市内の学校栄養士が集まり、学期ごとに献立の確認を行い、安心安全でおいしい給食の提供を実施。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○「給食はおいしいですか」というアンケートに対して「おいしい」「どちらかといえばおいしい」と肯定的に回答した児童生徒の割合 令和5年度（全校を対象にアンケート） 小学校 95% 中学校 94% 令和6年度（全校を対象にアンケート） 小学校 96% 中学校 95%	評価(達成度)	
			A	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	アンケート結果は向上し、目標値を達成することができた。 今後も学校現場の声を生かし、より良い給食を提供できるように取り組みを継続していきたい。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針7 学校体育、生涯スポーツを推進、奨励
	7ー① 体力・体づくりの推進

P l a n (計画)	事業名	体育教育推進事業	新規・継続	担当課
	目標・目的	児童生徒が運動に親しむ資質・能力の育成を図る。		
	アクションプラン指標	全小中学校において各学校の課題に応じた体力向上プランの実施		
D o (実行)	事業内容	・「体力向上1校1プラン」の充実 ・「スポチャレいしかわ」の取組推進 ・「市体力向上推進事業」の実施		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・各校が体力アップのプランを作成し、体力向上に向けての取組を実施した。 ・「スポチャレいしかわ」に全小学校が取り組んだ。 ・国府小学校の低学年を対象に、北陸体力科学研究所の指導のもと、跳運動と投運動に取り組んだ。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○「体力向上1校1プラン」では、自校が立てた目標を達成するため、各学校に応じた取組を行い、2学期、3学期に再度測定を行い評価していた。 ○「スポチャレいしかわ」に計画的に取り組んでいる。取組学級数は、R4は100%、R5は96%、R6は99%と高い水準を維持している。また、種目の中では、40mと長なわにおいて、ベスト部門やチャレンジ部門で入賞した学級が多くみられた。 ○体力向上推進事業では、4回の跳動作の指導により、1年生の男女とも全国の平均的な記録の伸びに比べ、それを上回る記録の伸びがみられた。		評価(達成度)
				A A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず
A c t i o n (改善)	課題	・「体育が楽しい」と肯定的な回答をする割合を高めるために、教材研究はもとより、様々な教育活動の中で、運動に親しむ機会を確保していく必要がある。 ・体育の見方・考え方である「する」「見る」「知る」「支える」を働かせて、スポーツとの多様なかわり方を体験させていく必要がある。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分		方針8 夢や創造性をもって新たな「知」を創出する科学教育を推進
		8-① 質の高い科学教育の推進

P l a n (計画)	事業名	「楽しむ、学ぶ、挑む」サイエンスの推進	新規・継続	担当課																													
			継続	ひととのづくり科学館																													
	目標・目的	質の高い科学教育の推進																															
D o (実行)	アクションプラン指標	幼児とシルバー世代の来館者数R3→R6 20%増																															
	事業内容	・幼児から大人までバラエティー豊かな体験教室 ・年間を通した大人向け講座(こまつ市民大学・大人のための分子模型作り講座) ・幼児向け夏イベント(あそべ〜る水族館) ・小学校中学年以上向け夏イベント(バーチャル宇宙飛行士選抜試験) ・SDGsを学ぼう(テーマ:多様性 環境絵画コンテスト作品を用いた対話型鑑賞会) ・防災体験教室(普段も災害時も役立つ防災クッキング) ・R5より3Dスタジオ上映番組の充実																															
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・R3年〜R6年の来館者数および団体来館者数は、年々増えた。 ・ワンダーランド(展示場)無料化後、週末来館者数が増えた。 団体来館状況 <table border="1"> <caption>団体来館状況 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校団体</td> <td>5,000</td> <td>5,800</td> <td>6,500</td> <td>6,800</td> </tr> <tr> <td>一般団体</td> <td>500</td> <td>1,800</td> <td>2,500</td> <td>3,500</td> </tr> <tr> <td>視察</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> 来館者数 <table border="1"> <caption>来館者数 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来館者数</td> <td>55,000</td> <td>108,000</td> <td>110,000</td> <td>110,000</td> </tr> </tbody> </table>			区分	R3	R4	R5	R6	学校団体	5,000	5,800	6,500	6,800	一般団体	500	1,800	2,500	3,500	視察	0	0	0	0	区分	R3	R4	R5	R6	来館者数	55,000	108,000	110,000
区分	R3	R4	R5	R6																													
学校団体	5,000	5,800	6,500	6,800																													
一般団体	500	1,800	2,500	3,500																													
視察	0	0	0	0																													
区分	R3	R4	R5	R6																													
来館者数	55,000	108,000	110,000	110,000																													
C h e c k (評価)	点検・評価	○様々な分野の科学、施設の多様な活用で幅広い年代の生涯学習の場、学びの場としての利用が促進された。 ○企業・大学・高校など外部連携を充実させることで、様々な学びを提供することができた。 ○市内こども園・幼保園・小中学校等の利用回数に制限を持たせず、受け入れたことで、来館が増えた。		評価(達成度)																													
				A																													
				A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず																													
A (改善)	課題	・ワンダーランド(展示場)無料化にともない週末来館者数は増えたが、3Dスタジオや体験教室などの(有料)利用に結びつきにくい。 ・ワンダーランド(展示場)の無料ゾーンだけを利用する団体利用者も見受けられるので、3Dスタジオや体験教室などの魅力を伝える一層の努力を図る。																															
用語説明		用語	説明																														

点検評価票

アクションプラン区分	方針8 夢や創造性をもって新たな「知」を創出する科学教育を推進
	8-① 質の高い科学教育の推進

P l a n (計画)	事業名	学校とひとものづくり科学館、教育研究センターの連携（教育施設としての活用）		新規・継続	担当課
				継続	ひとものづくり科学館
	目標・目的	幼児、児童、生徒の理科への興味関心を高め、学校における科学的教育環境の充実を図る			
	アクションプラン指標	教育研究センターとの連携を通し、学校における科学的教育環境の充実に向け、R6年度までに企画、実施、検証、改善を行う。			
D o (実行)	事業内容	・幼児から児童、生徒までの科学・ものづくり体験、天体学習 ・市内小学校4年生レゴプログラミング教育 ・ステップルーム生徒(不登校傾向)の積極的受け入れ ・SSH※との連携「究める課題研究発表会」 ・小中学校の理科教員支援			
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・ものづくり体験学習・天体学習を実施する市内幼保園・学校利用の増加 ・市内小学校4年生プログラミング教育に3Dスタジオでの天体学習のセット化による学びの充実化 ・SSH連携事業「究める課題研究発表会」の実施、多様な学習機会や学習成果の活用による地域の教育力の向上に向けた取り組み ・小・中学校理科部会における天体学習や工作教室 			
C h e c k (評価)	点検・評価	○市内幼保園、学校団体の3Dスタジオ無料化(R5～)に伴い、対象施設の上映回数、観覧者数が増加した。(R4:59回2,382人、R5:73回2,673人、R6:70回2,412人) ○プログラミング教育では教材用のロボット、および操作端末を一新した。スタッフの熟練度の向上にもつながった。 ○小中各理科部会の研修では毎年テーマ・内容を変えて実施しており、教員の教材開発のヒントにつながった。 ○「究める課題研究発表会」はSSH指定校以外の参加校もあり、地域の科学教育の振興に有効な取り組みであった。また、様々な年代の児童、生徒との質疑応答があり、科学的・論理的なプレゼンテーション能力の向上が期待できるものであった。			評価(達成度)
					A
A (改善)	課題	・テストとは異なる正答のない課題に取り組む中、学ぶモチベーションを維持するための工夫や、探求力の育成、課題解決につながる学びの手だてを考える必要がある。			
用語説明	用語		説明		
	SSH		スーパーサイエンスハイスクールの略。高校において先進的理科教育、大学との共同研究、国際性を育む取り組みを推進。県内では3高校(小松、泉丘、七尾)が指定。		

点検評価票

アクションプラン区分	方針8 夢や創造性をもって新たな「知」を創出する科学教育を推進
	8-① 質の高い科学教育の推進

P l a n (計画)	事業名	学校とひととのづくり科学館と教育研究センターの連携	新規・継続	担当課
	目標・目的	科学教育の推進	継続	教育研究センター
	アクションプラン指標	「理科の勉強が好き」と回答する児童生徒の割合が80%以上		
D o (実行)	事業内容	「サイエンスアクションプラン」をもとにした科学教育の推進		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・R6全国学力・学習状況調査質問紙調査より「理科の勉強が好き」と回答する児童生徒の割合は、小学校84.0% (R5:80.3%) 中学校76.5% (R5:69.1%) ・石川県中学生サイエンスチャレンジに全中学校・義務教育学校が参加した。 ・小松市児童生徒科学作品展において、市内小中学校の科学作品の展示を行った。 ・サイエンスヒルズこまつにて、小学校4年生児童がプログラミング体験を行った。 ・市内小学校に理科支援員を配置し、理科の授業の充実を図った。		
C h e c k (評価)	点検・評価	△「理科の勉強が好き」と回答する児童生徒の割合は、小学校は目標指標を上回っている。中学校は昨年度より増加しているが、目標指標を下回っている。 ○市内小中学校児童生徒の科学作品の展示を行い、科学に対する興味や関心、探究心を高めることができた。 ○石川県サイエンスチャレンジでは、金賞を受賞した市内3校が「科学の甲子園ジュニア石川県大会」に出場した。 ○市内小学校4年生全児童がサイエンスヒルズこまつを利用して、プログラミング的思考を体験することができた。 ○理科支援員を配置により、理科の授業におけるきめ細かな指導の充実を図ることができた。	評価(達成度)	
			B A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	
A (改善)	課題	・「理科の勉強が好き」と回答する児童生徒が小・中学校ともに80%以上となるよう、各取組の改善・充実を図るとともに、学校全体での授業改善を推進する。 ・サイエンスヒルズこまつでの学習が、教科の単元目標（本時のねらい）の達成につながるものとなるよう、学校とサイエンスヒルズこまつとの連携をさらに深めていく必要がある。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針9 伝統文化の継承、音楽活動を支援・奨励
	9-① ふるさとの文化の理解と伝承

P l a n (計画)	事業名	子供歌舞伎勸進帳上演事業	新規・継続	担当課
	目標・目的	・伝統文化や先人達の歴史への理解と継承 ・主体性、チャレンジ精神、協調性の育成 ・社会貢献意欲の育成		
	アクションプラン指標	子供歌舞伎「勸進帳」上演の継続、実施、検証		
D o (実行)	事業内容	役者及び長唄・囃子方として出演する小中学生を募集し、毎年5月に開催される「日本こども歌舞伎まつりin小松」において、小松市ゆかりの歌舞伎「勸進帳」を上演する。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	○第25回日本こども歌舞伎まつりin小松 ・リハーサル 令和6年5月3日(金祝) ・本番 令和6年5月4日(土祝)・5日(日祝) ○第26回日本こども歌舞伎まつりin小松 ・出演者募集 令和6年8月下旬 ・役者選考会 令和6年11月16日(土) 応募者:15人 ・上演結団式 令和6年12月8日(日) 出演者:役者14人 長唄・囃子方26人 ・稽古 令和6年12月14日(土)から		
C h e c k (評価)	点検・評価	○第25回は、役者12人のうち7人が第24回の出演者で、継続的な関わりが歴史や伝統文化への理解につながった。 ○北陸新幹線小松駅開業イベントでのPRや、本番直前に情報番組の生中継コーナーに出演し、主体的に勸進帳のPRを行った。		評価(達成度)
				A
				A 十分達成
				B おおむね達成
				C やや不十分
				D 達成できず
A (改善)	課題	・魅力の発信と出演者の確保 ・上演の継続に向けた指導者の負担軽減、指導体制の強化、スタッフの確保と育成		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針9 伝統文化の継承、音楽活動を支援・奨励
	9-① ふるさとの文化の理解と伝承

P l a n (計画)	事業名	郷土の歴史・文化の継承と啓発活動（市史編纂事業）	新規・継続	担当課
			継続	図書館
	目標・目的	当市が培ってきた文化・歴史を受け継ぐとともに後世に伝えていく。		
	アクションプラン 指標	『新修 小松市史 通史編Ⅰ・Ⅱ』の発刊・市史講座 年4回以上の開催		
D o (実行)	事業内容	・Ⅰ期10巻を平成10年度から平成22年度で刊行し、Ⅱ期10巻を平成25年度から令和4年度で刊行。令和4年度に『通史編Ⅰ』と『通史編Ⅱ』を発刊し市史編纂事業完了。 （業務完了に伴い、令和5年度末に原資料の管理を博物館に移管。）		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・刊行した巻の販売業務を継続して行った。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○刊行した巻の注文は続いており、販売業務を行った。	評価(達成度)	
			A	
			A 十分達成	B おおむね達成
A (改善)	課題	在庫を管理しながら販売業務を継続していく。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分		方針11 自然と共生し、様々な難局を乗り越える人間力を育成	
		11-① SDG s の推進	

P l a n (計画)	事業名	SDGs推進事業	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	子供たちが学校の特色を生かして、世界の課題を自分の課題として捉え、考え、行動していく学びを推進する。		
	アクションプラン指標	全小・中・義務教育学校でのSDGs推進に向け、計画、実施、検証、改善を行う。		
D o (実行)	事業内容	・探究学習の充実 ・カリキュラム・マップの活用		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・市内の全小・中・義務教育学校が、自校の特色を生かしたねらいとテーマを設定して探究学習をすることができた。 ・カリキュラム・マップを活用し、様々な教科においてSDG s を意識した教育活動が行われた。		
C h e c k (評価)	点検・評価	○カリキュラム・マネジメントの視点を生かし、総合的な学習の時間や生活科、その他の教科の学びと関連させ探究学習が実施された。 ○カリキュラム・マップを活用し、SDG s に関係する学習を教科横断的にカリキュラム・マネジメントすることで、理解を深めたり、実践したりすることができた。	評価(達成度)	
			B	
			A	十分達成
			B	おおむね達成
			C	やや不十分
			D	達成できず
A (改善)	課題	・各校において、カリキュラムマップを活用し、探究的な学習を系統立ててさらに充実させていく必要がある。		
用語説明		用語	説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針12 小松と世界をつなぎ持続可能な社会を切り拓く未来志向の活動を推進
	12-① グローバルに活躍する人材の育成

P l a n (計画)	事業名	国際都市こまつ青少年交流事業	新規・継続	担当課	
			継続	生涯学習課	
	目標・目的	友好交流都市と本市の中高生が相互交流を行うことで、両市の友好親善及び青少年が異文化を理解し、国際的な視野を育むことを目的とする。			
	アクションプラン指標	自国文化、他国文化理解教育の推進 参加者満足度80%以上			
D o (実行)	事業内容	友好交流都市と本市の中高生を交互に受入・派遣し、ホームステイや学校訪問、文化交流活動を通じて、グローバル人材育成と友好親善を図る。			
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・友好交流都市との青少年交流については、彰化市（台湾）からの意向がなく、再延期となった。 ・アメリカ・スティーブソン校と松陽中学校の交流会を開催した。 5月22日 書道、レクリエーションによる交流。			
C h e c k (評価)	点検・評価	○アメリカ・スティーブソン高校と松陽中学校の交流において、生徒は生き生きしており、実践的な英語でコミュニケーションを図ることができた。	評価(達成度)		
			B		
A (改善)	課題	友好交流都市の意向を踏まえながら、オンライン交流や対面交流等を検討していきたい。	A 十分達成		
			B おおむね達成		
	用語説明		C やや不十分		
			D 達成できず		
		用語	説明		

点検評価票

アクションプラン区分	方針12 小松と世界をつなぎ持続可能な社会を切り拓く未来志向の活動を推進
	12-① グローバルに活躍する人材の育成

P l a n (計画)	事業名	留学生支援事業	新規・継続	担当課
			継続	生涯学習課
	目標・目的	生活の中で異文化を体験する機会を拡大し、国際的な視野をもって考え行動できる人材を育成することを目的とする。		
	アクションプラン指標	自国文化、他国文化理解教育の推進 外国語活動、英語教育の充実		
D o (実行)	事業内容	ホームステイを伴う留学生の派遣、及び受入れに要する経費の一部を支援するために、補助金を交付する。		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	留学及びホームステイ支援事業補助金交付実績 ・受入生（ホームステイ支援） 1人 アルゼンチン（令和6年4月～令和7年2月）		
C h e c k (評価)	点検・評価	○受入生は日本の生活習慣に触れるとともに、地域の伝統行事や文化などを体験した。異文化交流により、相互理解を深めることにつながった。	評価(達成度)	
			A	
			A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	
A (改善)	課題	今後も国際的な視野を持つ人材育成を目指し、適切な支援を行っていく。		
用語説明	用語		説明	

点検評価票

アクションプラン区分	方針12 小松と世界をつなぎ持続可能な社会を切り拓く未来志向の活動を推進
	12-① グローバルに活躍する人材の育成

P l a n (計画)	事業名	英語教育推進事業	新規・継続	担当課
			継続	学校教育課
	目標・目的	児童生徒のコミュニケーション能力の育成と教師の指導力向上を図ることを目的とする。		
	アクションプラン指標	英語が好きな児童・生徒の割合 R3：75% → R6：85%		
D o (実行)	事業内容	English Plan Komatsu 事業		
	実績・成果 (アクションプランの進捗含む)	・スピーチコンテスト（中2）の実施 ・英検費用全額助成（中2、3） ・市内小・中・義務教育学校へのALT派遣 ・プロジェクト会議、小学校向け研修会の実施		
C h e c k (評価)	点検・評価	△スピーチコンテストの周知がうまくいっていない。 ○プロジェクトチームにおいて、事業の見直しを図ったことにより学校の実態に応じたものに修正することができた。 ○英検費用を全額助成したことにより、力試しとして英検の上位の級に挑戦する生徒数が増加した。 ○小学校においてもALTと英語を使ってコミュニケーションを行う授業が増えつつあり、子どもたちの意欲向上につながっている。 △「英語が好き」と回答した児童生徒の割合 （R6県基礎学力調査質問紙より） 小6：76.4% 中3：67.1%	評価(達成度)	
			B	
			A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	
A (改善)	課題	目指す姿の実現に向けて、プロジェクトチームを中心に英語の授業改善を進めていく。		
用語説明	用語		説明	

IV 令和6年度小松市教育委員会の活動状況

1 小松市教育委員会

職 名		氏 名	備 考
教 育 長		山 本 民 夫	R6.4.1 就任
教育委員	教育長職務代理者	中 惣 恭 子	
	委 員	村 井 啓 介	
	委 員	浅 蔵 一 華	
	委 員	表 幹 也	R6.10.12 就任

2 教育委員会会議の実施状況

(1) 開催回数

定例会議：12回

臨時会議：2回

(2) 付議件数

区分	内 容	件 数
議 案	規則等に関する事	11件
	議会の議決を経るべき議案に関する事	0件
	教科用図書採択に関する事	5件
	委員の委嘱等に関する事	3件
	その他	10件
	計	29件
報 告		33件
その他		15件

(3) 教育委員からの意見・提言

意見・提言件数 37件

3 総合教育会議の実施状況

平成27年4月1日に施行された改正「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、すべての地方公共団体に総合教育会議が設置されることとなりました。本市は「小松市総合教育会議条例」を制定し、当該会議の設置を明確化しています。

(1) 総合教育会議の概要

- 地方公共団体の長（市長）が設置
- 構成員は市長及び教育委員会（必要に応じ意見聴取者の出席を要請）
- 会議は市長が招集し、原則公開
- 協議・調整事項

- ・教育に関する大綱の策定
- ・教育の条件整備など重点的に講ずべき施策
- ・児童・生徒等の生命・身体のプロテクト等緊急の場合に講ずべき措置

○総合教育会議において調整が行われた事項については、構成員は調整結果を尊重しなければならない

(2) 開催日及び討議事項

回（開催日）	討 議 事 項
第1回（R 6 . 1 2 . 2 6）	「小松市教育大綱について」について
第2回（R 7 . 1 . 2 9）	「小松市教育大綱について」について

4 教育委員が出席した主な活動内容

(1) 学校計画訪問

小学校 17校
中学校 7校

(2) 教育委員会、小松市等の会議・行事

- ・研究指定校発表会
- ・小松市立学校 校長協議会
- ・小松市社会教育賞贈呈式
- ・新規採用教職員服務宣誓式
- ・各校下立志式
- ・小松市成人式
- ・勝木賞授与式
- ・小松市功勞3賞贈呈式
- ・小松市文化賞贈呈式
- ・小松市スポーツ賞授与
- ・小学校、中学校卒業式
- ・各種スポーツ、文化大会開会式等
- ・中学校古典教室
- ・小中学生サミット

議案第 22 号

小松市立学校スクールバスの管理及び運用に関する訓令の制定について

小松市立学校スクールバスの管理及び運用に関する訓令を次のとおり制定する。

小松市立学校スクールバスの管理及び運用に関する訓令

(趣旨)

第1条 この訓令は、学校（小松市立小学校等設置条例（昭和40年小松市条例第19号）第2条の学校をいう。以下同じ。）におけるスクールバスの管理及び運用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この訓令において「スクールバス」とは、学校に就学する児童又は生徒（以下「児童等」という。）の当該学校への通学（以下単に「通学」という。）の用に供するため本市が所有し、又は借り上げた自動車（道路交通法（昭和35年法律第105号）第2条第1項第9号の自動車をいう。）をいう。

(目的)

第3条 この訓令は、徒歩による通学の距離が遠い児童等又は徒歩による通学に危険がある児童等に対しスクールバスによる通学をさせることで当該児童等の通学の安全を確保することを目的とする。

(使用基準)

第4条 スクールバスを通学の用に供させることができる児童等の基準は、次に該当する児童等であって教育長がスクールバスを通学の用に供させることが適当であると認めるものとする。

- (1) 通学の距離が概ね4キロメートル以上の児童
- (2) 通学の距離が概ね6キロメートル以上の生徒
- (3) 前2号に該当する児童等のほか、児童等の通学の安全を確保するために特にスクールバスでの通学が必要である者

2 前項に該当する児童等のためにスクールバスを運行する場合であって、その乗車定数に余裕があるときは、前項の規定に該当する児童等以外の児童等の通学の用に当該スクールバスを使用させることができる。この場合におい

て前項の規定に該当する児童等のスクールバスの運用に不利益を与えてはならない。

（目的外使用）

第5条 前条の使用基準に反しない限りにおいて、教育長は、次の用途にスクールバスを使用させることができる。

- (1) 学校の校外活動、放課後児童クラブの館外活動
- (2) 課長（小松市事務分掌規則（昭和55年小松市規則第2号）に規定する課長及びセンター長並びに小松市教育委員会の組織等に関する規則（平成22年教育委員会規則第9号）に規定する課長等をいう。）から申出があった用途
- (3) 前2号に掲げるもののほか教育長が特に必要と認める用途
（管理者）

第6条 スクールバスの管理及び運用は、主管課が行うものとする。

2 主管課は、スクールバスの管理及び運用として次の業務を行う。

- (1) スクールバスの車両及び運転手の確保
- (2) スクールバスの車両の維持修繕に関すること。
- (3) スクールバスの運行管理に関すること。
- (4) 児童等の第4条の使用基準該当性の判断に関すること。
- (5) 前条の規定に基づくスクールバスの使用の可否の判断に関すること。

3 主管課は、前項各号の業務の全部又は一部を児童等の就学する学校の長に委任することができる。

（使用の手続き等）

第7条 スクールバスの管理者は、スクールバスの使用に必要な手続きを定めることができる。

2 スクールバスの管理者は、スクールバスの使用者が順守すべき事項について定めることができる。

（委任）

第8条 この訓令に定めるもののほか、スクールバスの管理及び運用に関する事務は、教育長が別に定める。

附 則

この訓令は、令和7年9月1日から施行する。

小中学校配置最適化に関するアンケート実施について

【1.趣旨】

令和7年4月1日より「第3期こまつ教育大綱」を策定し、教育理念を「Learn Well, Live Well ～いつだって、誰だって、新しい可能性～」と定めた。これは、良い学び（教育）が良い暮らし（人生）につながるとの考えのもと、学ぶ意欲に応える政策を推進するものである。

社会の変化や少子化の進行に伴い、持続可能で質の高い学校教育環境の整備が一層重要となっており、学校の規模や配置の在り方について検討する必要性が高まっている。

本アンケートは、こうした検討に資する資料を得ることを目的として実施するもの。

【2. アンケート対象者等】

保護者向け

- 調査対象：小学校・中学校に在籍する児童生徒の保護者（全保護者対象）
- 調査方法：電子アンケート（こまつ電子申請サービスのフォーム）
- 発送・回答期限：8月中発送 2週間程度を期限

市民向け

- 調査対象：18歳以上から無作為で抽出した3,000人
- 調査方法：電子アンケート（こまつ電子申請サービスのフォーム）にて実施

対象者にハガキを作成し、QRコードを添付して回答依頼

- 発送・回答期限：8月中発送 2週間程度を期限

教員向け

- 調査対象：小学校・中学校に在籍する教員
- 調査方法：電子アンケート（こまつ電子申請サービスのフォーム）にて実施
- 発送・回答期限：8月中発送 2週間程度を期限

【3. アンケート構成（全7～8問・選択式+自由記述）】

	内 容	趣旨・ねらい
■問1	基本情報	子供の学年、性別・年代・職業・居住地域・ 家族構成、勤務先、担当業務など
■問2～■問8 （保護者向け・ 市民向けは全 問7）	学校と地域の関わり ※保護者向けは設問無し	学校への関与度、地域拠点としての認識
	学校の教育環境にお ける満足度 ※市民向けは設問無し	通学先・勤務先の学校の教育環境における 現状評価の評価
	学校の高機能・多機 能性	学校高機能・多機能性に必要な施設・設備 教育以外で学校に期待する役割の把握
	学校の規模	クラス規模や適正人数についての意識把握
	学校配置最適化の 必要性	通学先・勤務先・校下の学校および市内全 小中学校を対象とした最適化の可否・時期・ 重視点
	通学区域について	校下や通学区域における意識把握
	自由記述	その他意見聴取する項目

【4. アンケートから得られる主な情報と分析視点】

項 目	分析視点
学校ごとの教育環境に対する満足度	学校別における学校施設、教職員体制、学 習環境に関する評価の傾向
学校への関わりの程度	学校との関わりに対する関心・参加意欲の 地域差や個人差
学校規模や通学区域に対する意識	適正と考えるクラス・学校規模、通学区域 （校下）に対する受け止め方の傾向
配置最適化の賛否と時期感	小・中学校ごとの最適化（再編）に対する賛 否、適切と考える実施時期およびその理由

【5. 今後のスケジュール】

R7. 8月～ アンケート実施 9月～ アンケート結果とりまとめ・分析

10月～ R8. 3月 適正規模・適正配置基本方針（案）とりまとめ、策定

【保護者用 アンケート内容】（案）

■ 問１：基本情報

Q1-1. あなたとお子さまのご関係を教えてください。

- ☐ 父親
- ☐ 母親
- ☐ その他（祖父母、親族など）
- ☐ 回答しない

Q1-2. あなたのお住まいの地域を教えてください。（〇〇校下から選択）

- ☐ （プルダウンにて住んでいる校下を選択）

Q1-3. お子さまの通われている学校を選択してください（選択）

小学校（23 選択肢） 中学校（10 選択肢）

Q1-4. お子さまの学年を教えてください（選択）

小学校：1 年／2 年／3 年／4 年／5 年／6 年

中学校：1 年（義務教育 7 年）／2 年（義務教育 8 年）／3 年（義務教育 9 年）

Q1-5. あなたのご家族構成について、同居されているお子さまをすべて教えてください。

（複数選択可）

- ☐ 未就学児
- ☐ 小学生
- ☐ 中学生
- ☐ 高校生
- ☐ 大学生以上

■ 問２：お子さまが通われている学校の教育環境について

Q2-1. お子さまが通われている学校の教育に満足していますか？

- ☐ とても満足している
- ☐ だいたい満足している
- ☐ あまり満足していない
- ☐ 全く満足していない
- ☐ わからない

Q2-2. (Q2-1 で「わからない」以外を選んだ方へ) その理由として当てはまるものを教えてください。(複数選択可)

【満足している・だいたい満足している場合】

- ☐ 学習内容や支援体制が充実している
- ☐ 教職員が熱心で面倒見が良い
- ☐ 友人関係や人間関係が良好である
- ☐ 学校規模がちょうどよい((クラス数や児童生徒数が適切))
- ☐ 校舎や設備が整っている
- ☐ 通いやすい場所にある
- ☐ 部活動や課外活動が充実している
- ☐ その他(自由記載)

【あまり満足していない・全く満足していない場合】

- ☐ 学習内容や支援体制が不十分だと感じる
- ☐ 教職員の指導や対応に不満がある
- ☐ 友人関係や人間関係に問題がある
- ☐ 学校規模が適切ではない(クラス数や児童生徒数が多すぎる／少なすぎる)
- ☐ 校舎や設備が古い・不足している
- ☐ 通学距離が負担になっている
- ☐ 部活動、課外活動が不十分だと感じる
- ☐ その他(自由記載)

■ 問3：学校の高機能・多機能化について

Q3-1. お子さまが通う学校をより良くするために、必要だと思われる施設や設備があればお選びください。(複数選択可)

- ☐ ICT 機器の整備(タブレット、電子黒板など)
- ☐ 児童・生徒の遊び場の充実(遊具、校庭整備など)
- ☐ 通学支援の充実(スクールバスの導入など)
- ☐ 障がいや国籍など、個人の特性に配慮した学習環境の整備(個別支援スペースの設置、支援教材の導入など)
- ☐ バリアフリー設備の整備(エレベーター、スロープの設置など)
- ☐ 防犯設備の設置(防犯カメラの設置など)
- ☐ 体育館の空調設備(冷暖房)
- ☐ トイレの整備(洋式化、屋外トイレの設置など)
- ☐ 駐輪場の整備・拡充
- ☐ 駐車スペースの整備(送迎用を含む)

- ☐ その他（自由記載）
- ☐ わからない

Q3-2. 学校に教育の場以外で期待する役割は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 地域の交流の場（地域によるイベント・講座などの開催）
- ☐ 子どもの遊び場（放課後や休日に遊べる場所）
- ☐ 子育て支援の場（学童保育など）
- ☐ 避難所や防災拠点
- ☐ スポーツや文化活動の場（地域のスポーツ・文化クラブの練習・試合・発表の場）
- ☐ その他（自由記載）
- ☐ わからない

■ 問4：学校の規模について

Q4-1. （一般的に）小中学校における1学年のクラス数として、どのくらいが望ましいと考えますか？

【参考】文部科学省が定める学校教育法施行規則では小中学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下（小学校は1 学年 2～3 クラス、中学校は1 学年 4～6 クラス）と定められています。

- ☐ 小学校1 学年 1 クラス（中学校1 学年 3 クラス以下）程度
- ☐ 小学校1 学年 2～3 クラス（中学校1 学年 4～6 クラス）程度
- ☐ 小学校1 学年 4 クラス（中学校1 学年 7 クラス）以上
- ☐ わからない

Q4-2. お子さまが通われている学校のクラス数について、どう感じますか？

- ☐ 適正だと思う
- ☐ 少ないと思う
- ☐ 多いと思う
- ☐ わからない

Q4-3. （一般的に）1 クラスあたりの人数について、どのくらいが望ましいと考えますか？

【参考】小松市では、1 学級あたりの児童生徒数を以下のように編成しています。

小学校：35 人以下

中学校：1 年生：35 人以下、2 年生～3 年生：40 人以下

- ☐ 15 人以下
- ☐ 16～20 人程度
- ☐ 21～25 人程度
- ☐ 26～30 人程度
- ☐ 31～35 人程度

- ☐ 36 人以上
- ☐ わからない

Q4-4. お子さまが通われている学校の 1 クラスあたりの人数について、どう感じますか？

- ☐ 適正だと思う
- ☐ 少ないと思う
- ☐ 多いと思う
- ☐ わからない

■ 問 5：学校配置最適化（学校の統廃合や新設などの配置や機能の再編）の必要性と重視する点について

Q5-1. お子さまが通われている学校について、学校配置最適化の必要性についてどう考えますか？

☐ 学校配置最適化は必要

- ・ 時期：☐ 早期（5 年以内） ☐ 中期（10 年程度） ☐ 将来的に（時期はこだわらない）
- ・ 学校配置最適化が必要だと思う理由は何ですか？（複数選択可）
 - ☐ 学校規模（クラス数・児童生徒数など）が適切でないため
 - ☐ 教育内容の充実や多様化のため
 - ☐ 学校施設の老朽化対応
 - ☐ 教職員の確保や負担軽減
 - ☐ 財政的な効率化
 - ☐ 地域での支え合いや交流が難しくなっているから
 - ☐ その他（自由記載）

・ 学校配置最適化を進める上で重視すべきことは何ですか？（複数選択可）

- ☐ 保護者・地域住民との十分な対話・説明
- ☐ 子どもの通学距離や安全の確保
- ☐ スクールバスなど移動手段の充実
- ☐ 統合後の教育環境の充実（施設・設備・教員配置など）
- ☐ 地域コミュニティ機能の維持
- ☐ 統合後の校舎や跡地の活用方法
- ☐ その他（自由記載）

☐ 学校配置最適化は不要

- ・ 理由は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 現在の教育環境で十分だと思うから
- ☐ 地域に学校があることが子育てに大切だから
- ☐ 通学距離が長くなるのは不安だから
- ☐ 地域とのつながりが弱まるのが心配だから
- ☐ 現時点で学校配置最適化の必要性を感じないから
- ☐ その他（自由記載）

- ☐ どちらとも言えない
- ☐ わからない

■ 問6：通学区域について

Q6. 通学区域について、どのような考えに近いですか？

- ☐ 現在の住所による通学区域を維持すべき
- ☐ 従来の通学区域は残したままで、隣接する区域内の希望する学校を選べるようにすべき
- ☐ 市内をいくつかのブロックに分け、そのブロック内で学校を選べる「ブロック制」などを導入すべき
- ☐ 自由に市内の学校を選べるよう「選択制」にすべき
- ☐ わからない

■ 問7：自由意見（任意）

Q7. その他ご意見やご要望があればお聞かせください（自由記述）

【市民向け アンケート内容】（案）

■ 問 1：基本情報

Q1-1. あなたの性別を教えてください。

- ☐ 男
- ☐ 女
- ☐ 回答しない

Q1-2. あなたの年齢を教えてください。

- ☐ 20 歳未満
- ☐ 20 代
- ☐ 30 代
- ☐ 40 代
- ☐ 50 代
- ☐ 60 代
- ☐ 70 歳以上

Q1-3. あなたのご職業について教えてください。（複数選択可）

- ☐ 自営業（農林漁業含む）
- ☐ 会社員
- ☐ 団体職員
- ☐ 公務員
- ☐ パート・アルバイト
- ☐ 派遣
- ☐ 学生
- ☐ 家事専業
- ☐ 無職
- ☐ その他（自由記載）

Q1-4. あなたのお住まいの地域を教えてください。（〇〇校下から選択）

- ☐ （プルダウンにて住んでいる校下を選択）

Q1-5. あなたのご家族構成について、同居されている方をすべて教えてください。（複数選択可）

- ☐ 未就学児
- ☐ 小学生

- ☐ 中学生
- ☐ 高校生
- ☐ 大学生以上
- ☐ 学齢期の子どもはいない

■ 問2：学校と地域との関わりについて

Q2-1. あなたは、地域の小中学校にどのような目的で関わったことがありますか？

(複数選択可)

- ☐ 学校行事（運動会、文化祭など）に参加した
- ☐ PTA や保護者活動に参加した
- ☐ 通学路の見守りやボランティアをした
- ☐ 体育館やグラウンドなどを利用した
- ☐ 地域のイベントなどで利用した
- ☐ 選挙投票所として利用した
- ☐ 災害時の避難所として利用した
- ☐ その他（自由記載）
- ☐ 特に地域の小中学校には関わったことはない

■ 問3：学校の高機能・多機能化について

Q3-1. 学校をより良くするために、必要だと思われる施設や設備があればお選びください。(複数選択可)

- ☐ ICT 機器の整備（タブレット、電子黒板など）
- ☐ 児童・生徒の遊び場の充実（遊具、校庭整備など）
- ☐ 通学支援の充実（スクールバスの導入など）
- ☐ 障がいや国籍など、個人の特性に配慮した学習環境の整備（個別支援スペースの設置、支援教材の導入など）
- ☐ バリアフリー設備の整備（エレベーター、スロープの設置など）
- ☐ 防犯設備の設置（防犯カメラの設置など）
- ☐ 体育館の空調設備（冷暖房）
- ☐ トイレの整備（洋式化、屋外トイレの設置など）
- ☐ 駐輪場の整備・拡充
- ☐ 駐車スペースの整備（送迎用を含む）
- ☐ その他（自由記載）
- ☐ わからない

Q3-2. 学校に教育の場以外で期待する役割は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 地域の交流の場（地域によるイベント・講座などの開催）
- ☐ 子どもの遊び場（放課後や休日に遊べる場所）
- ☐ 子育て支援の場（学童保育など）
- ☐ 避難所や防災拠点
- ☐ スポーツや文化活動の場（地域のスポーツ・文化クラブの練習・試合・発表の場）
- ☐ その他（自由記載）
- ☐ わからない

■ 問4：学校の規模について

Q4-1. 市内の小中学校において、児童生徒数が全体的に減少傾向であることをご存じですか？

- ☐ よく知っている
- ☐ なんとなく知っている
- ☐ 知らなかった

Q4-2. （一般的に）小中学校における1学年のクラス数として、どのくらいが望ましいと考えますか？

【参考】文部科学省が定める学校教育法施行規則では小中学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下（小学校は1 学年 2～3 クラス、中学校は1 学年 4～6 クラス）と定められています。

- ☐ 小学校1 学年1 クラス（中学校1 学年3 クラス以下）程度
- ☐ 小学校1 学年 2～3 クラス（中学校1 学年 4～6 クラス）程度
- ☐ 小学校1 学年 4 クラス（中学校1 学年 7 クラス）以上
- ☐ わからない

Q4-3. （一般的に）1 クラスあたりの人数について、どのくらいが望ましいと考えますか？

【参考】小松市では、1 学級あたりの児童生徒数を以下のように編成しています。

小学校：35 人以下

中学校：1 年生：35 人以下、2 年生～3 年生：40 人以下

- ☐ 15 人以下
- ☐ 16～20 人程度
- ☐ 21～25 人程度
- ☐ 26～30 人程度
- ☐ 31～35 人程度

- ☐ 36 人以上
- ☐ わからない

■ 問5：学校配置最適化（学校の統廃合や新設などの配置や機能の再編）の必要性と重視する点について

Q5-1. 市内の全小学校について、学校配置最適化の必要性についてどう考えますか？

- ☐ 学校配置最適化は必要
 - ・ 時期：☐ 早期（5 年以内） ☐ 中期（10 年程度） ☐ 将来的に（時期はこだわらない）
 - ・ 学校配置最適化が必要だと思う理由は何ですか？（複数選択可）
 - ☐ 学校規模（クラス数・児童生徒数など）が適切でないため
 - ☐ 教育内容の充実や多様化のため
 - ☐ 学校施設の老朽化対応
 - ☐ 教職員の確保や負担軽減
 - ☐ 財政的な効率化
 - ☐ 地域での支え合いや交流が難しくなっているから
 - ☐ その他（自由記載）
 - ・ 学校配置最適化を進める上で重視すべきことは何ですか？（複数選択可）
 - ☐ 保護者・地域住民との十分な対話・説明
 - ☐ 子どもの通学距離や安全の確保
 - ☐ スクールバスなど移動手段の充実
 - ☐ 統合後の教育環境の充実（施設・設備・教員配置など）
 - ☐ 地域コミュニティ機能の維持
 - ☐ 統合後の校舎や跡地の活用方法
 - ☐ その他（自由記載）
- ☐ 最適化は不要
 - ・ 理由は何ですか？（複数選択可）
 - ☐ 現在の教育環境で十分だと思うから
 - ☐ 地域に学校があることが子育てに大切だから
 - ☐ 通学距離が長くなるのは不安だから
 - ☐ 地域とのつながりが弱まるのが心配だから
 - ☐ 現時点で学校配置最適化の必要性を感じないから
 - ☐ その他（自由記載）

- ☐ どちらとも言えない
- ☐ わからない

Q5-2. 市内の全中学校について、学校配置最適化の必要性についてどう考えますか？

- ☐ 学校配置最適化は必要
 - ・ 時期：☐ 早期（5 年以内） ☐ 中期（10 年程度） ☐ 将来的に（時期はこだわらない）
 - ・ 学校配置最適化が必要だと思う理由は何ですか？（複数選択可）
 - ☐ 学校規模（クラス数・児童生徒数など）が適切でないため
 - ☐ 教育内容の充実や多様化のため
 - ☐ 学校施設の老朽化対応
 - ☐ 教職員の確保や負担軽減
 - ☐ 財政的な効率化
 - ☐ 地域での支え合いや交流が難しくなっているから
 - ☐ その他（自由記載）
 - ・ 学校配置最適化を進める上で重視すべきことは何ですか？（複数選択可）
 - ☐ 保護者・地域住民との十分な対話・説明
 - ☐ 子どもの通学距離や安全の確保
 - ☐ スクールバスなど移動手段の充実
 - ☐ 統合後の教育環境の充実（施設・設備・教員配置など）
 - ☐ 地域コミュニティ機能の維持
 - ☐ 統合後の校舎や跡地の活用方法
 - ☐ その他（自由記載）
- ☐ 最適化は不要
 - ・ 理由は何ですか？（複数選択可）
 - ☐ 現在の教育環境で十分だと思うから
 - ☐ 地域に学校があることが子育てに大切だから
 - ☐ 通学距離が長くなるのは不安だから
 - ☐ 地域とのつながりが弱まるのが心配だから
 - ☐ 現時点で学校配置最適化の必要性を感じないから
 - ☐ その他（自由記載）
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ わからない

Q5-3. 次にお住まいの地域にある小学校について、学校配置最適化の必要性についてどう考えますか？

☐ 学校配置最適化は必要

・ 時期：☐ 早期（5 年以内） ☐ 中期（10 年程度） ☐ 将来的に（時期はこだわらない）

・ 学校配置最適化が必要だと思う理由は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 地域によって児童生徒数に偏りがあるから
- ☐ 教育内容の充実や多様化のため
- ☐ 学校施設の老朽化対応
- ☐ 教職員の確保や負担軽減
- ☐ 財政的な効率化
- ☐ 地域での支え合いや交流が難しくなっているから
- ☐ その他（自由記載）

・ 学校配置最適化を進める上で重視すべきことは何ですか？（複数選択可）

- ☐ 保護者・地域住民との十分な対話・説明
- ☐ 子どもの通学距離や安全の確保
- ☐ スクールバスなど移動手段の充実
- ☐ 統合後の教育環境の充実（施設・設備・教員配置など）
- ☐ 地域コミュニティ機能の維持
- ☐ 統合後の校舎や跡地の活用方法
- ☐ その他（自由記載）

☐ 学校配置最適化は不要

・ 理由は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 現在の教育環境で十分だと思うから
- ☐ 地域に学校があることが子育てに大切だから
- ☐ 通学距離が長くなるのは不安だから
- ☐ 地域とのつながりが弱まるのが心配だから
- ☐ 現時点で学校配置最適化の必要性を感じないから
- ☐ その他（自由記載）

☐ どちらとも言えない

☐ わからない

Q5-4. 次にお住まいの地域にある中学校について、学校配置最適化の必要性についてどう考えますか？

☐ 学校配置最適化は必要

・ 時期：☐ 早期（5 年以内） ☐ 中期（10 年程度） ☐ 将来的に（時期はこだわらない）

・ 学校配置最適化が必要だと思う理由は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 地域によって児童生徒数に偏りがあるから
- ☐ 教育内容の充実や多様化のため
- ☐ 学校施設の老朽化対応
- ☐ 教職員の確保や負担軽減
- ☐ 財政的な効率化
- ☐ 地域での支え合いや交流が難しくなっているから
- ☐ その他（自由記載）

・ 学校配置最適化を進める上で重視すべきことは何ですか？（複数選択可）

- ☐ 保護者・地域住民との十分な対話・説明
- ☐ 子どもの通学距離や安全の確保
- ☐ スクールバスなど移動手段の充実
- ☐ 統合後の教育環境の充実（施設・設備・教員配置など）
- ☐ 地域コミュニティ機能の維持
- ☐ 統合後の校舎や跡地の活用方法
- ☐ その他（自由記載）

☐ 学校配置最適化は不要

・ 理由は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 現在の教育環境で十分だと思うから
- ☐ 地域に学校があることが子育てに大切だから
- ☐ 通学距離が長くなるのは不安だから
- ☐ 地域とのつながりが弱まるのが心配だから
- ☐ 現時点で学校配置最適化の必要性を感じないから
- ☐ その他（自由記載）

☐ どちらとも言えない

☐ わからない

■ 問 6：通学区域について

Q6. 通学区域について、どのような考えに近いですか？

- ☐ 現在の住所による通学区域を維持すべき
- ☐ 従来の通学区域は残したままで、隣接する区域内の希望する学校を選べるようにすべき
- ☐ 市内をいくつかのブロックに分け、そのブロック内で学校を選べる「ブロック制」などを導入すべき
- ☐ 自由に市内の学校を選べるよう「選択制」にすべき
- ☐ わからない

■問 7：自由意見（任意）

Q7. その他ご意見やご要望があればお聞かせください（自由記述）

【教職員向け アンケート】(案)

■ 問１：基本情報（無記名）

Q1-1. 現在勤務されている学校を教えてください。

☐ （学校名から選択）

Q1-2. 担当している主な業務

☐ 学級担任 ☐ 級外 ☐ 特別支援 ☐ 管理職・主幹教諭等

☐ 養護・栄養教諭等

Q1-3. 性別を教えてください。

☐ 男

☐ 女

☐ 回答しない

Q1-4. 年齢を教えてください。

☐ 20 代

☐ 30 代

☐ 40 代

☐ 50 代

☐ 60 代以上

■ 問２：学校と地域の関わりについて

Q2-1. 教職員として、学校が地域と関わる場面について経験のあるものをお選びください
（複数選択可）

☐ 学校行事（運動会、文化祭など）への地域参加

☐ PTA や保護者活動の支援・連携

☐ 通学路の見守りや地域ボランティアとの連携

☐ 地域住民への体育館やグラウンドの開放

☐ 地域の会合やイベントでの施設使用

☐ 選挙投票所対応

☐ 災害時の避難所対応

☐ その他（自由記載）

☐ 特に地域との関わりはない

■ 問3：お勤めの学校の教育環境について

Q3-1. 現在勤務している学校の教育環境に満足していますか？

- ☐ とても満足している
- ☐ だいたい満足している
- ☐ あまり満足していない
- ☐ 全く満足していない
- ☐ わからない

Q3-2. 上記の理由を教えてください。（複数選択可）

【満足している場合】

- ☐ 教職員の協力体制・連携が良好
- ☐ 教育内容や支援体制が充実している
- ☐ 施設・設備が整っている
- ☐ 通学・通勤の利便性
- ☐ 地域や保護者との関係性が良好
- ☐ その他（自由記載）

【満足していない場合】

- ☐ 教職員の人員・配置に課題がある
- ☐ 教育内容や支援体制が不十分
- ☐ 校舎や設備の老朽化
- ☐ 地域・保護者との連携に課題がある
- ☐ その他（自由記載）

■ 問4：学校の高機能・多機能化について

Q4-1. 現在勤務している学校をより良くするために、必要だと思われる施設や設備があればお選びください。（複数選択可）

- ☐ ICT 機器の整備（タブレット、電子黒板など）
- ☐ 児童・生徒の遊び場の充実（遊具、校庭整備など）
- ☐ 通学支援の充実（スクールバスの導入など）
- ☐ 障がいや国籍など、個人の特性に配慮した学習環境の整備（個別支援スペースの設置、支援教材の導入など）
- ☐ バリアフリー設備の整備（エレベーター、スロープの設置など）
- ☐ 防犯設備の設置（防犯カメラの設置など）
- ☐ 体育館の空調設備（冷暖房）

- ☐ トイレの整備（洋式化、屋外トイレの設置など）
- ☐ 駐輪場の整備・拡充
- ☐ 駐車スペースの整備（送迎用を含む）
- ☐ その他（自由記載）
- ☐ わからない

Q4-2. 学校に教育の場以外で期待する役割は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 地域の交流の場（地域によるイベント・講座などの開催）
- ☐ 子どもの遊び場（放課後や休日に遊べる場所）
- ☐ 子育て支援の場（学童保育など）
- ☐ 避難所や防災拠点
- ☐ スポーツや文化活動の場（地域のスポーツ・文化クラブの練習・試合・発表の場）
- ☐ その他（自由記載）
- ☐ わからない

■ 問5：学校の規模について

Q5-1. （一般的に）小中学校における1学年のクラス数として、どのくらいが望ましいと考えますか？

【参考】文部科学省が定める学校教育法施行規則では小中学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下（小学校は1 学年 2～3 クラス、中学校は1 学年 4～6 クラス）と定められています。

- ☐ 小学校 1 学年 1 クラス（中学校 1 学年 3 クラス以下）程度
- ☐ 小学校 1 学年 2～3 クラス（中学校 1 学年 4～6 クラス）程度
- ☐ 小学校 1 学年 4 クラス（中学校 1 学年 7 クラス）以上
- ☐ わからない

Q5-2. 勤務先の学校のクラス数について、どう感じますか？

- ☐ 適正だと思う
- ☐ 少ないと思う
- ☐ 多いと思う
- ☐ わからない

Q5-3. （一般的に）1 クラスあたりの人数について、どのくらいが望ましいと考えますか？

【参考】小松市では、1 学級あたりの児童生徒数を以下のように編成しています。

小学校：35 人以下

中学校：1 年生：35 人以下、2 年生～3 年生：40 人以下

- ☐ 15 人以下
- ☐ 16～20 人程度
- ☐ 21～25 人程度

- ☐ 26～30 人程度
- ☐ 31～35 人程度
- ☐ 36 人以上
- ☐ わからない

Q5-4. 勤務先の学校の 1 クラスあたりの人数について、どう感じますか？

- ☐ 適正だと思う
- ☐ 少ないと思う
- ☐ 多いと思う
- ☐ わからない

■ 問 6：学校配置最適化（(学校の統廃合や新設などの配置や機能の再編)の必要性と重視する点について

Q6-1 市内の全小学校について、学校配置最適化の必要性についてどう考えますか？

- ☐ 学校配置最適化は必要
 - ・ 時期：☐ 早期（5 年以内） ☐ 中期（10 年程度） ☐ 将来的に（時期はこだわらない）
 - ・ 配置最適化が必要だと思う理由は何ですか？（複数選択可）
 - ☐ 学校規模（クラス数・児童生徒数など）が適切でないため
 - ☐ 教育内容の充実や多様化のため
 - ☐ 学校施設の老朽化対応
 - ☐ 教職員の確保や負担軽減
 - ☐ 財政的な効率化
 - ☐ 地域での支え合いや交流が難しくなっているから
 - ☐ その他（自由記載）
 - ・ 学校配置最適化を進める上で重視すべきことは何ですか？（複数選択可）
 - ☐ 保護者・地域住民との十分な対話・説明
 - ☐ 子どもの通学距離や安全の確保
 - ☐ スクールバスなど移動手段の充実
 - ☐ 統合後の教育環境の充実（施設・設備・教員配置など）
 - ☐ 地域コミュニティ機能の維持策
 - ☐ 統合後の校舎や跡地の活用方法
 - ☐ その他（自由記載）
- ☐ 学校配置最適化は不要
 - ・ 理由は何ですか？（複数選択可）
 - ☐ 現在の教育環境で十分だと思うから

- ☐ 地域に学校があることが子育てに大切だから
- ☐ 通学距離が長くなるのは不安だから
- ☐ 地域とのつながりが弱まるのが心配だから
- ☐ 現時点で学校配置最適化の必要性を感じないから
- ☐ その他（自由記載）

☐ どちらとも言えない

☐ わからない

Q6-2. 市内の全中学校について、学校配置最適化の必要性についてどう考えますか？

☐ 学校配置最適化は必要

・ 時期：☐ 早期（5 年以内） ☐ 中期（10 年程度） ☐ 将来的に（時期はこだわらない）

・ 学校配置最適化が必要だと思う理由は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 地域によって児童生徒数に偏りがあるから
- ☐ 教育内容の充実や多様化のため
- ☐ 学校施設の老朽化対応
- ☐ 教職員の確保や負担軽減
- ☐ 財政的な効率化
- ☐ 地域での支え合いや交流が難しくなっているから
- ☐ その他（自由記載）

・ 学校配置最適化を進める上で重視すべきことは何ですか？（複数選択可）

- ☐ 保護者・地域住民との十分な対話・説明
- ☐ 子どもの通学距離や安全の確保
- ☐ スクールバスなど移動手段の充実
- ☐ 統合後の教育環境の充実（施設・設備・教員配置など）
- ☐ 地域コミュニティ機能の維持策
- ☐ 統合後の校舎や跡地の活用方法
- ☐ その他（自由記載）

☐ 学校配置最適化は不要

・ 理由は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 現在の教育環境で十分だと思うから
- ☐ 地域に学校があることが子育てに大切だから
- ☐ 通学距離が長くなるのは不安だから

- ☐ 地域とのつながりが弱まるのが心配だから
- ☐ 現時点で学校配置最適化の必要性を感じないから
- ☐ その他（自由記載）

- ☐ どちらとも言えない
- ☐ わからない

Q6-3. 現在勤務している学校について、学校配置最適化の必要性についてどう考えますか？

☐ 学校配置最適化は必要

・ 時期： ☐ 早期（5 年以内） ☐ 中期（10 年程度） ☐ 将来的に（時期はこだわらない）

・ 学校配置最適化が必要だと思う理由は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 地域によって児童生徒数に偏りがあるから
- ☐ 教育内容の充実や多様化のため
- ☐ 学校施設の老朽化対応
- ☐ 教職員の確保や負担軽減
- ☐ 財政的な効率化
- ☐ 地域での支え合いや交流が難しくなっているから
- ☐ その他（自由記載）

・ 学校配置最適化を進める上で重視すべきことは何ですか？（複数選択可）

- ☐ 保護者・地域住民との十分な対話・説明
- ☐ 子どもの通学距離や安全の確保
- ☐ スクールバスなど移動手段の充実
- ☐ 統合後の教育環境の充実（施設・設備・教員配置など）
- ☐ 地域コミュニティ機能の維持策
- ☐ 統合後の校舎や跡地の活用方法
- ☐ その他（自由記載）

☐ 学校配置最適化は不要

・ 理由は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 現在の教育環境で十分だと思うから
- ☐ 地域に学校があることが子育てに大切だから
- ☐ 通学距離が長くなるのは不安だから
- ☐ 地域とのつながりが弱まるのが心配だから

- ☐ 現時点で学校配置最適化の必要性を感じないから
- ☐ その他（自由記載）

- ☐ どちらとも言えない
- ☐ わからない

■ 問 7：通学区域について

Q7. 通学区域の考え方として近いものをお選びください。

- ☐ 現在の住所による通学区域を維持すべき
- ☐ 従来の通学区域は残したままで、隣接する区域内の希望する学校を選べるようにすべき
- ☐ 市内をいくつかのブロックに分け、そのブロック内で学校を選べる「ブロック制」などを導入すべき
- ☐ 自由に市内の学校を選べるよう「選択制」にすべき
- ☐ わからない

問 8：自由意見（任意）

Q8. その他ご意見やご要望があればお聞かせください（自由記述）

令和6年度放課後児童クラブ自己評価の公表について

1. 趣旨

放課後児童クラブが自己点検表により自己チェックを行うことで、現状や課題を的確に把握し、具体的かつ明確な改善目標を設定。また、放課後児童クラブと生涯学習課が課題を共有し、両者が協力しながら改善を行うことで児童の健全育成につなげる。

2. 評価方法

「小松市放課後児童クラブ運営基準」に従い、放課後児童クラブで運営状況等について自己点検表を作成。評価結果を踏まえ、生涯学習課が実地調査を行い、放課後児童クラブと協議のうえ、自己評価を確定。

3. 期待する効果

- ・利用者（児童、保護者）サービスの向上
- ・クラブ間の情報共有による放課後児童クラブの質の向上
- ・運営基準等の遵守
- ・開かれた放課後児童クラブ運営の実現

4. 実施時期

- ・自己評価 … 令和7年4～5月
- ・実地調査 … 令和7年6月
- ・集計、クラブ確認 … 令和7年7月

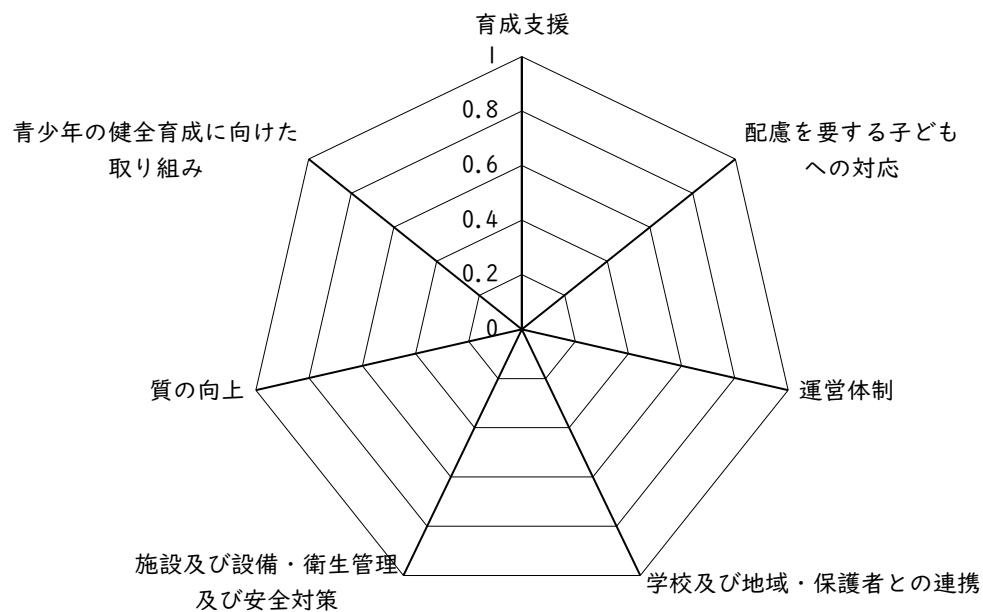
5. 自己評価

自 己 評 価		A	B	計
令和6年度	クラブ数	28	7	35
	割合(%)	80.0	20.0	100.0
令和5年度	クラブ数	25	10	35
	割合(%)	71.4	28.6	100.0
令和4年度	クラブ数	19	16	35
	割合(%)	54.3	45.7	100.0

6. 公表

- ・公表方法 別紙【自己評価シート】をホームページに掲載
- ・公表時期 令和7年9月1日(月)

【自己評価シート】〇〇〇児童クラブ



〈クラブ評価〉

No.	項 目	内 容
1	育成支援	
2	配慮を要する子どもへの対応	
3	運営体制	
4	学校及び地域・保護者との連携	
5	施設及び設備・衛生管理及び安全対策	
	訓練実施回数	
6	質の向上	
	1人当たり研修参加回数	
7	青少年の健全育成に向けた取り組み	
	フローラルこまつ推進団体	
	ボランティア活動実施回数	

姉妹都市・高知県宿毛市との交流事業について

令和6年11月に姉妹都市提携を結んだ高知県宿毛市から小学生8名を含む11人が本市を訪れ、宿毛市出身の竹内明太郎氏が創業した(株)小松製作所栗津工場の見学をはじめ、本市の伝統工芸である九谷焼の絵付け体験、サイエンスヒルズこまつでのプログラミング体験、木場小学校児童との交流などを行いました。

1. 日程

令和7年8月5日(火) ～ 8月8日(金)

2. 交流事業の内容

【1日目(8月5日)】



プログラミング体験(サイエンスヒルズ)

【2日目(8月6日)】



市長表敬



木場小学校との交流



九谷焼絵付け体験

【3日目(8月7日)】



遊泉寺銅山



(株)小松製作所栗津工場見学



こまつの杜見学

令和7年度小松市グッドマナーキャンペーンについて

1. 趣旨

- ・「心の教育推進協議会」（事務局：石川県教育委員会生涯学習課）が主催するグッドマナーキャンペーンに賛同し、小松市内においても一斉に活動することで、青少年健全育成の機運を高める。
- ・市、学校、心の教育を推進する団体が連携、協力しながら、まず大人が規範となり、青少年に公共マナーの大切さや交通ルールの遵守を呼びかける。

2. 市立小学校・中学校の取組み

- ・取組み期間 令和7年9月1日(月)～30日(火)
※各学校の実情に応じ1週間程度実施。
- ・取組み内容 交通指導及び挨拶運動を兼ねて実施。生徒（会）が自主的かつ積極的に挨拶運動に参加するよう指導を行う。
- ・その他 のぼり旗、啓発ポスター設置

3. 市内協力団体の取組み

- ・取組み日時 令和7年9月17日(水) 午前7時30分～午前8時00分
※小雨決行、荒天の場合は9月18日(木)に順延
- ・取組み内容 挨拶運動、交通指導等
- ・取組み場所 市内3駅（小松駅、栗津駅、明峰駅）
- ・協力団体 小松市教育委員会、石川県青少年育成推進指導員、小松っ子を育てる市民会議、小松市少年育成センター育成員、小松市立学校PTA連合会、小松市校下女性協議会、小松市公民館連合会、小松市少年補導員連絡協議会、小松能美保護区保護司会小松支部、小松地区更生保護女性会、小松市民生委員児童委員協議会 など

寄附の受納について

本市の文化振興のために、下記のとおり寄附がありました。

記

- 1 寄附者 北野 勝彦 様
- 2 受納日 令和7年8月5日
- 3 寄附物件 細棹三味線（長唄用） 二棹
- 4 寄附目的 市立高校邦楽部へ「日本こども歌舞伎まつり in 小松」
での「勸進帳」長唄発展のため